

フシセカンドスクール



第一小学校

9月22日～9月24日(2泊3日)

○日程表

9月22日(水)		9月23日(木)		9月24日(金)	
8:00	出発式 東京湾アクアライン 海ほたるPAにて休憩、見学	5:30	起床、朝の会	6:00	起床
		6:30	魚市場見学	6:30	朝の会
		7:30	朝食	7:00	朝食
11:30	城山公園にて昼食 館山城見学 開校式・避難訓練	9:30	地引き網漁体験	9:00	閉校式
		11:30	南総里見八犬伝のお話	10:00	千葉県水産総合研究センター見学
13:30	房州うちわ作り	12:30	昼食	12:00	昼食(道の駅ちくら潮風王国)
14:30	手紙書き	14:00	貝の標本作り ビーチコーミング(沖ノ島)		海ほたるPAにて休憩
17:00	夕食	18:00	夕食	16:30	学校着・帰校式
19:00	星座学習	19:00	ウミホテル鑑賞会		
19:30	入浴・就寝準備	19:30	入浴・就寝準備		
21:00	健康観察・学習の記録 消灯	健康観察・学習の記録 21:00 消灯			

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習の内容

(i) プレセカンドスクールへ向けてのガイダンス

初めての宿泊行事に向け、目標の設定とルール決め、必要な係活動の話し合いを行い、児童の自主的な活動を促すようにした。

(ii) 課題別学習

けやきの時間(総合的な学習)に館山観光交流協会の方に学校に来ていただき、館山市の概要や3日間の日程の中で児童が体験学習する内容について、説明していただいた。

館山市や体験活動について、おおまかにつかむことができ、その後、児童が学習の課題を設定するのに役立った。話し合いの結果、「館山城」「南総里見八犬伝」「房州うちわ」「星空・夕日」「船形漁港市場」「地引網」「ビーチコーミング」「ウミホテル」「千葉県水産総合研究センター」という9つのテーマについて分かれて課題別学習を進めることにした。

そして、それぞれの課題について、インターネットや図書資料を使って調べ学習を行い、情報を収集して、プレセカンドスクールに臨んだ。

② 事後の学習の内容

- ・ 国語の作文単元として「プレセカンドスクールでの思い出」を作文にまとめた。その後、作品を読み合い、互いの成果を認め合った。
- ・ けやきの時間に、グループごとの課題について、事前に調べた内容や現地での体験の様子、分かったことや感じたことなどをまとめ、学校公開の時に保護者や3年生に向けて発表を行った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、貝の標本作り・沖ノ島ビーチコーミング

当初の予定は、沖ノ島でビーチコーミングであったが、急な雨で予定を変更し、ホテルで雨天時プログラムの貝の標本作りを行った。NPO 法人「海の鑑定団」の方から、沖ノ島で拾える主な貝の種類を、一つずつ写真をスクリーンに映し出しながら貝の特徴や名前を説明してもらった。その後、児童自身が教えてもらった特徴を手がかりにして、いくつもの貝の中から説明と同じ貝を見つけ出し、木の板に名前のシールと共に貼り付けていった。全部貼り付けると、立派な貝の標本が出来上がった。制作の間に雨が止んだので、残った時間で沖ノ島へ出かけ、少しの時間であったがビーチコーミングも行った。貝の標本作りで見た貝を見つけて喜んだり、珍しい生き物の骨などを拾って驚いたりする児童の姿が見られた。



【貝の標本作り】

2、ウミホタル鑑賞会

2日目の夜、館山の海で見られる生物「ウミホタル」の鑑賞会を行った。ホテルの方が用意してくださったウミホタルは、明るい中では茶色い小さな微生物で、水の中で粉が混ざっているようにしか見えないが、灯りを消すと青白い光が水の中で浮かび上がり、幻想的で児童から大歓声が上がった。また、ウミホタルに詳しいホテルの方が、その生態や特徴についてお話してくださったが、年々ウミホタルの数が減っている現実も話してくださり、環境を守ることにについて考えさせられた。

<学習体験活動>

1、館山城見学・南総里見八犬伝の物語体験

館山城は、館山市の高台に建っていて、天守閣内は館山出身の作家、滝沢馬琴が書いた小説「南総里見八犬伝」の資料館になっている。児童は天守閣内の資料を見学しながら最上階へ昇り、お城の上から館山市を眺め、地形の特徴をつかんだ。



【南総里見八犬伝に出てくる八つの玉の意味を教えてくださいました】

また、2日目には、ホテルに南総里見八犬伝の語り部の方をお呼びして、南総里見八犬伝が書かれた背景や小説のあらすじを語っていただいた。八犬士の持つ八つの玉の意味もうちわを使って分かりやすく紹介していただき、児童も興味をもって聞き、よく理解することができた。

2、房州うちわ作り

房州うちわは、館山地方に受け継がれている伝統工芸品である。ホテルに職人の方をお呼びして、たくさんある工程の中から、いくつかを教えていただき、体験した。実際に職人さんが作るところを間近で見せていただくと、その手際のよさにみな驚き、拍手が沸き起こった。また体験では、手作業で一本一本の細い竹を間隔良く並べるのは一苦勞であったが、丁寧に教えていただきながら、みな真剣に根気良く作業に取り組んだ。

苦勞して出来上がったうちわからは、格別に心地よい風を感じ、「大切にしたい」「早く家族にも見せたい」と、満足そうな表情だった。

3、地引き網体験

2日目の午前中に多々良海岸で地引網を体験した。ほとんどの児童が初体験で、初めは軽がるロープを引いていたが、引いても引いても魚が見えず、次第にロープも重くなり、疲れと焦りが感じられた。くじけそうになりながらも、お互いを励まし、かけ声を合わせ、力を振り絞りながら根気良く引き続けた結果、たくさんの魚が網にかかり、みな大喜びであった。漁師さんが獲れた魚を選別し、一つ一つ魚の種類を教えてくださいました。アジ、イワシの他にも毒のある魚や珍しい天然のウナギやタツノオトシゴの仲間などにみな興味津々で、眺めたり、交代で触ってみたりすることができた。児童は喜びと共に、海で働く漁師さんたちの苦勞も実感していた。



【うわあ、たくさん獲れたー!!】

4、千葉県総合水産研究センター見学

3日目は、千葉県の水産に関する研究施設を見学した。施設内では、研究センターでどんな研究が行われているか、概要がまとめられているビデオを見せていただくとともに、展示室で千葉県沖で見つかった海の生き物の標本や魚礁の模型などを見学した。

また外では、アワビの養殖の様子を見学した。魚を育てる研究を行っていることを知り、大変有意義な学習となった。



【アワビの養殖の様子】

○児童の感想

- ・ 房州うちわは、作るのが難しかったけれど、上手にできたのでうれしかったです。家で大切に使いたいです。
- ・ 地引き網体験は、とても楽しく、心に残りました。たくさんの魚がとれたので、苦勞して網を引いたかいがありました。ホテルでおさしみやからあげにしてもらって食べたら、今まで食べたことがないくらいおいしかったです。
- ・ ビーチコーミングでめずらしい物が拾えたので、うれしかったです。
- ・ ウミホテルは自分の体が光っているのではなく、水を光らせていることを知り、びっくりしました。とても小さいのに、光った時はとてもきれいでした。

○保護者の感想

- ・ 3日間、友達と協力して無事に楽しく過ごせたようなので、我が子の成長を感じました。
- ・ 子供の話や他のお子さんの発表を聞くと、東京ではできない貴重な体験がたくさんできたんだなと感じました。
- ・ 館山に行ったことがないので、発表を聞いて一度行ってみたいと思いました。

○総合的な学習の時間との関連について

事前に館山の方からお話が聞けたことにより、館山での活動について大まかにつかむことができたので、課題別学習においては、見通しをもって取り組むことができた。館山での体験学習後は、「事前に調べたこと」「体験したこと」「感想や考え」を図や写真を入れて詳細にまとめ、聞く人に分かりやすく伝えるように工夫し、発表することができた。

また情報収集には、インターネットや武蔵野市立図書館からの図書の団体貸し出しを利用して、幅広く調べることができた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・ セカンドスクールでは民宿に宿泊する形をとっているので、初めての宿泊行事は共同の施設に泊まり、学年を母体にした班活動を経験させておいた方が、次年度に向けて集団生活におけるルールの徹底や精神面での不安の解消につながり、有効である。
- ・ 昨年度まで、プレセカンドスクールもセカンドスクールも「山」が主な活動のフィールドだったが、今年度より「海ー山」といった、2学年を見通した活動場所の系統性を確率することができた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・ 1日目に館山城を見学した後、2日目に南総里見八犬伝の物語を聞いたが、館山城見学の前か、または館山城見学時に聞くことができると館山城見学の際に理解が深まると考える。
- ・ 船形漁港市場や千葉県水産総合研究センターの見学は、漁業への理解を深めるのに有意義であった。見学内容はもっと工夫できそうなので、来年度へ情報を引き継ぎ、早めに検討していく。

第二小学校

10月13日～10月15日(2泊3日)

○日程表

10月13日(水)		10月14日(木)		10月15日(金)	
7:30	出発式	6:00	起床	6:00	起床
11:30	野鳥の森	6:30	朝会・体操	6:30	朝会・体操
	昼食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:15	野鳥の森散策	9:20	地引網体験(富浦海岸)	8:45	ビーチコーミング(沖ノ島)
14:45	開校式、避難訓練	12:00	昼食	11:30	昼食
15:30	房州うちわ作り	13:15	沖ノ島たんけん(沖ノ島)	12:20	開校式
18:00	夕食	17:00	夕日鑑賞会・石拾い	16:00	学校着、解散式
19:00	入浴	18:00	夕食		
21:15	就寝	19:00	入浴		
		20:00	ウミホタル鑑賞会		
		21:15	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・9月のはじめに、総合的な学習の時間を使って館山でお世話になる館山観光協会、「海の鑑定団」の方々に学校に来ていただき、事前学習を行った。館山市の地形や特徴、野鳥の森で見られる野鳥の種類、沖の島のビーチコーミングで見つけられる物などについての話を聞き、プレセカンドスクールに向けての学習意欲が高まった。
- ・6つの活動(野鳥の森・房州うちわ・地引き網・沖ノ島探検・ビーチコーミング・ウミホタル)ごとの課題別グループを編成し、調べてみたいことや疑問に思ったことなどをもとに、グループに分かれて調べ学習を進めた。各活動について調べた内容や活動時の注意事項をまとめ、しおりに載せた。
- ・図工科の時間を使って、房州うちわの絵柄作り(マーブリング)を事前に行った。
- ・生活班の中で、班長、副班長(生活係)、レク係、食事係、保健係の役割分担をし、係ごとに集まって仕事の内容確認や計画を進めた。
- ・音楽科では、現地の歌「レッツゴー沖ノ島」を振り付けと併せて歌い、現地のレクリエーションにも活かせるよう、練習をした。また、開校式で歌う「今日の日さようなら」は、感謝の気持ちをこめて歌えるように練習をした。

① 事後の学習内容

- ・ プレセカンドスクールでの活動メモや日記をもとに、国語科の時間と関連させて作文にまとめた。特に心に残ったこととその理由を中心に、はじめ・中・おわりを意識して作文を構成させた。
- ・ 事前学習で調べたことや、実際に体験して分かったことや聞いたことをもとに、国語科や総合的な学習の時間を使って、活動グループごとに壁新聞の形でまとめた。
- ・ 3年生にプレセカンドスクールについて紹介する発表会を行った。活動グループの新聞をもとに発表原稿を考え、3年生により分かりやすく伝えるように発表練習を行った。
- ・ 道徳の時間を使って、プレセカンドスクールの生活を振り返り、自分たちが成長した点、課題だった点を挙げ、今後どのように生活していくべきか話し合った。
- ・ プレセカンドスクールで作った「房州うちわ」を西部コミュニケーションセンターの文化祭に展示・発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、野鳥の森

野鳥の声に耳をすましながら散策をした。散策ではグループごとに助け合いながら行動し、野鳥や昆虫、植物など貴重な自然を観察すると共に、展望台から館山湾を望む眺望を楽しんだ。館内ではサシバの生態についての映像を鑑賞したり、展示物を見たりして、さらにくわしく学習することができた。

2、夕日鑑賞会・石拾い

予定していた2日目の天候によっては、見られないことが予測されたので、1日目の房州うちわ作りの合間に、ホテルの廊下から夕日を見せることができた。館山湾に沈んでいく夕日はとても美しく、感動的であった。2日目も海岸で雲間から夕日がのぞいているのを見ることができた。かすかな夕日の光に包まれている海岸で、図工科で制作するペーパーウェイト用の石を各自探して拾った。手触りや形にこだわって、お気に入りの石を探すことができた。

3、ウミホタル鑑賞会

現地の方から、ウミホタルの生態や、誕生してからの歴史、戦争時代は発光信号として用いられていたというお話などを伺った。鑑賞会では、ウミホタルが発光する仕組みを聞いた後、発光する瞬間の様子を観察することで、美しさや不思議さを体感した。きれいな海を守ることでウミホタルが生きていけることを知り、環境学習にもつながった。

4、沖ノ島たんけん

現地のNPO法人「海の鑑定団」の方から島のガイダンスを聞きながら散策した。沖ノ島の地形の不思議さを実感したり、昨年漂着したくじらの話を聞いたり、島の中にある神社や防空

壕も見学したりしながら海と森が共存する沖ノ島の自然の素晴らしさを体感することができた。

5、ネイチャーゲーム・ビーチコーミング

海の生き物や自然を探すネイチャーゲームを行い、行動班で夢中になって海の生き物を探す姿が見られた。後半はビーチコーミングを行い、宝贝やシーグラスなど海ならではの自然を見つける活動を展開した。沖ノ島の穏やかな海岸で貴重な体験をすることができた。

<学習体験活動>

1、房州うちわ作り

地元の伝統工芸であり、日本の三大うちわでもある房州うちわを作った。職人さんから手ほどきを受けながら、24ある工程のうちの4つの工程を体験した。また、職人さんにしかできない、うちわの骨の部分を作る場面を見学した。細かい作業や匠の技を感じ取りながら、うちわ作りの精巧さや難しさ、素晴らしさを体感することができた。



【房州うちわ作り】

<生活体験活動>

1、地引き網体験

富浦海岸で、地元の漁師さんのお話を伺いながら、地引き網を体験した。全員で力を合わせて精一杯網を引いた。捕れた魚について漁師さんから名前や生態の説明を受けた。さらにアジやサヨリなどの捕れた魚を夕食のおかずにして出していただき、食事を楽しんだ。



【地引き網】

○児童の感想

- ・野鳥の森では、歩いている途中に鳥の鳴き声が聞こえてきました。立ち止まったときにはさらに聞こえてきたので、たくさんの野鳥がいることが分かりました。自然が多くていいところだなと思いました。
- ・特に心に残っているのは房州うちわ作りです。作るのはとても難しかったです。でも自分としては上手にできたと思うので嬉しかったです。
- ・地引き網では、もっとひっぱってという合図の赤い旗があがらないようにがんばって引きました。最初は小さい魚しかかかっていなかったのが不安でしたが、最後にたくさん魚がかかっていたので良かったです。えいや海へびがいて驚きました。
- ・ビーチコーミングでは、たくさんタカラガイを拾おうと思っていました。タカラガイを12個も見つけてうれしかったです。きれいな貝も探しました。コロコロ音が鳴る貝もありました。時間になった時、もう終わりかと思いました。
- ・ウミホタル鑑賞では、人間よりもずっと前にウミホタルが生きていたことを知り、これからはきれいな海でウミホタルが生きていてほしいと思いました。
- ・このプレセカンドスクールで、友だちともっと仲よくなれたと思います。協力してこの3日間を過ごせたことが成長できたことだと思います。



【ビーチコーミング】

○保護者の感想

- ・発表会を見て、詳しく調べて学習したんだということがよく分かりました。自分も館山に行ってみたくくなりました。
- ・帰ってきてから、家でも自分で整理整頓ができるようになったと思います。
- ・初めて親から離れて3日も過ごすことや、初めての体験に不安が大きかったようで心配していましたが、無事に帰ってこられ、充実した3日間だったようです。

○総合的な学習の時間との関連について

事前学習、現地での学習、事後学習と一連の学習を総合的な学習の時間に位置付けた。事前学習では、課題について事前に調べ、現地での学習に臨んだ。事後の学習では、発表会に向け分かったことを新聞の形にまとめたり、下級生に分かりやすく発表する練習をしたりして、表現力が高まる活動を展開した。

○セカンドスクールとの関連について

事前に調べ、体験し、まとめるという学習を行うことで、セカンドスクールでの学習に結び付けていく。また、セカンドスクールに必要な基本的な生活習慣・公共性・規律・集団行動のルール・マナーなど、親元から離れ、自ら行動できる素地をプレセカンドスクールにおいて養う。

○次年度に向けての反省・課題

今年度から地引き網を行う海岸を変更した。機械を使わないので、捕れる魚の量は減ったが、みんなの手だけで網を引く体験は、実感をより伴う活動となり、子ども達から歓声があがった。雨の影響で、急遽場所を移動することになったので、現地のコーディネーターとの連絡をもっと密にとり、状況を把握しておく必要があった。

2日目の沖の島たんけんでは、学年を2つのグループに分け、「海の鑑定団」の方に話を聞きながら散策をした。鑑定団の方の話を聞き取るのが困難という前年度の反省から少人数の4つのグループに講師の先生が一人ずつついていただくようお願いしたが、人材不足とのことで、今年度も2名の講師と補助の方2名となった。少人数のグループで、より充実した活動が行えるように観光協会をお願いをしていく。

ウミホタルの鑑賞会では、講師の方がとても詳しく、分かりやすく教えてくれたので、子どもたちの興味・関心を深めることができた。しかし、夜の鑑賞会のため、その後の就寝準備が慌ただしくなってしまった。2日目の時程の検討が必要である。

「セカンドスクールにつながるプレセカンドスクール」を前提として活動内容やねらいを全職員がさらに共通理解をして実施していきたい。

第三小学校

6月2日～6月4日(2泊3日)

○日程表

6月2日(水)		6月3日(木)		6月4日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・おにぎり作り	6:00	起床・検温
11:15	農業トレーニングセンター 到着	8:20	朝の会(観光協会前)	8:30	農業体験
12:15	開校式(体育館)	9:15	八海山山麓到着 山頂駅近くの 展望台及び山麓のトレッキング	11:00	民宿の方と昼食作り
14:00	田植え体験	13:30	レイホー八海到着 わら細工製作体験	13:00	上越観光協会前集合 閉校式
17:30	ぬか釜体験	20:00	民宿の方との語らい	16:30	学校到着・帰校式
20:00	はがき書き				
21:30	就寝	21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・学校での初めての宿泊体験ということで、児童は、「どんなところに行くのかな。」「何をしに行くのだろう。」など、たくさんの不安をもっていた。期待よりも不安の方が大きい児童もいたが、宿泊体験のめあて、どこに何をしに行くのか、宿泊所での生活などを話していくうちに、「早く行ってみたい。」「友達と泊まるのはドキドキする。」とプレセカンドスクールを楽しみにするようになった。
- ・体験活動を充実させるために、総合的な学習の時間に課題の調べ学習を行った。自分で調べたい内容を選択し、調べたことを新聞にまとめる活動を行った。選択テーマは、南魚沼の気候、雪国の生活の工夫、八海山の自然、南魚沼の特産物、南魚沼産コシヒカリなどである。インターネットや南魚沼市の社会科の副読本、図書室の資料などを利用して、調べ学習を行った。使用した資料やメモは一冊の資料集にまとめ、新聞をまとめる際の資料とした。
- ・事前学習を通して、例えば、豪雪地帯である南魚沼では、家の屋根の形を工夫して雪を落ちやすくしたり、消雪パイプを道路に設置して、雪を溶かししたりしていることなどを興味深く学習した。南魚沼について知れば知るほど、行ってみたい、見てみたいという意欲がさらに高まり、何を見るかという視点も明確になった。

新潟県南魚沼市樺野沢

参加人数 男子59名 女子44名
計103名

② 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験の中でもっとも印象に残ったことをふりかえり、新聞や発表の資料にするために、プレセカンドスクールで学んだことを作文にまとめた。
- ・「プレセカンドスクールを3年生に伝えよう」という活動を総合的な学習の時間に毎年行っている。南魚沼の自然や気候、豪雪地帯の生活の工夫、八海山の自然、コシヒカリのおいしさのひみつ、などを伝えるグループに分かれ、模造紙にまとめたり、紙芝居にしたり、劇を演じたりしながら、グループごとに発表方法を工夫して取り組んだ。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、山頂駅付近のトレッキング

2日目に、八海山に向かい、自然ガイドの指導のもとに、トレッキングを行った。ロープウェーで4合目にあたる山頂駅に向かう。ロープウェーが上がるにつれ、南魚沼平野が見渡せ、雄大な眺望である。子どもたちは目を輝かせながら、観察をしていた。緑の絨毯のような田んぼが一面に広がり、とても美しい景色だった。



【八海山トレッキングの様子】

頂上駅では、6月にもかかわらず、雪が残っており、子どもたちは学習した通りだと感動して雪を観察していた。雪のところどころに、穴があいており、不思議そうに観察していると、ガイドの方から、「ウサギの糞だよ。」と教えられびっくりしていた。また、「雪が残っていることからわかるように、この八海山を含む越後山脈に日本海からの湿った空気がぶつかり、たくさんの雪を降らせるんだよ。」とガイドさんが説明してくださると、「学校で学習したことは本当なんだ。」と、本物の自然を見ながら子どもたちは熱心に学んでいた。展望台からは、日本海や佐渡島も見渡せ、地図で学習した地名や位置を実際の景色を通して、学習することができた。

2、山麓駅付近のトレッキング

山頂駅付近のハイキングが終わると、ロープウェイで、山麓に戻り、山麓駅周辺のトレッキングを行った。あるグループではわらびなどを採りながら、山の植物について学習を行った。子どもたちは民宿に持って帰って食べるために、熱心にわらびを探し、自然観察を行った。別のグループでは、イタドリを切って、笛を作り、誰が上手に音を出せるか笛の吹き合いをしていた。サンカヨウの白く、小さい花が咲き乱れた美しい芝生を踏みしめ、雄大な八海山の景色をバックにトレッキングをすることができた。

＜地元の方と関わる体験活動＞

1、田植え

1日目の昼から、民宿の方を招き、民宿街の近くの田んぼで田植えを行った。初めは、なかなか素足で田んぼの中に入ることができなかった子どもたちも、慣れてくると、楽しんで田植えに取り組み始めた。地元の方から、「一度にたくさん植えたらだめだ。」「足の入れ方、抜き方に注意して。」「だんだん上手になってきた。」などと声をかけられ、時には質問をし、民宿のお父さん、お母さんと交流を深めることもできた。田植えを通して、自分たちが食べているお米がこんな苦勞をして作られていることに、改めて思いをはせていた。



【田植えの様子】

2、わら細工体験(花瓶づくり)

2日目は、八海山のトレッキングを終えた後、レイホー八海という施設にて、地元の方の指導のもと、わらを使った花瓶を制作した。わらを一本一本竹筒に貼りつけていく。地元の方の説明をよく聞き、黙々と作業に取り組んでいた。わらの節をずらして貼りつけていくことで、模様を作ることを教えてもらおうと、子どもたちは魚の形にしたり、八海山の八つ峰の形にしたり、思い思いの形を表現しようと真剣に取り組んでいた。完成すると、難しくて大変だと思っていた花瓶を完成させた達成感と充実感に「やったあ。」と歓声をあげ、喜んでいた。後日の感想では、「昔の人は、わらで色々な物を作ることができた。環境にも優しく、手先も器用になり、今の人よりすごいと思った。」と感想を残していた。

3、民宿の方との語らい

2日目の夜は、民宿の方との語らいである。宿ごとの特色を出して、南魚沼の自然や歴史、生活などについて子どもたちにじっくりと語っていただいた。ある宿では、南魚沼の昔の道具を見せながら、当時の生活の様子を話していただいた。南魚沼は豪雪地帯なので、人が通る道もあつという間に雪で埋まってしまう。そこで、かんじきを履いた状態でさらに、すかりという道具をはいて、自分の足で道の雪を踏み固めたそうである。機械もない時代に朝早くから、道を踏み固めないといけなかったことに子どもたちは驚き、熱心にメモをとりながら、学習をしていた。

4、農業体験

3日目は、午前中は各宿ごとに、野菜の苗植えや、草取り、コシヒカリの苗箱洗いなど、南魚沼の地元の方が普段行っている農作業を体験する活動を行った。苗箱を洗う仕事をした班は、まず、箱についた泥をたわしで洗い、滅菌機に通し、整理して積み重ねていくという作業を行った。何十個という苗箱を洗う必要があったが、子どもたちは班の友達と協力して、一生懸命に仕事に取り組んでいた。後日の感想で、「苗を植えるだけでなく、使った後の苗箱をしっかりと洗い、次に使えるようにしておくことも大切な仕事なんだと分かりました。」と書いていた。

○児童の感想

- ・田植えをした時は、初めは「気持ち悪い。」と思ったけど、中に入って、田植えをしているうちに、気持ち良くなってきました。いつも食べているご飯を作るのに、こんな苦勞をしているんだということが分かりました。
- ・民宿で3日間を過ごして、食事の準備や後片付けをしたり、荷物の準備や整理をしたりして、自分のことが自分でできるようになったと思います。宿のお父さんとお母さんもすごく優しく、たくさんのことを教えてもらってうれしかったです。また南魚沼に行きたいです。

○保護者の感想

- ・たった3日なのに、すごくしっかりしてきた。自分に自信がついたように見受けられる。自分で「やろう。」「やりたい。」と思ったことを迷わず、さっとできるようになった。帰宅した時の顔つきが変わっていた。お米や食に対して意識が高まった。
- ・白米の大切さを学んで、帰ってきました。残さず、ありがたいという気持ちで食事をするようになりました。
- ・南魚沼の地方の文化・自然・農業など全てに興味をもったようで、私の知らないことを色々と教えてくれました。子どもの吸収力はすごいと感じました。
- ・初めて、班長をまかせて頂き、自分の事だけでなく班全体の動きを見る勉強をさせていただき、ひとまわり成長できたように思われます。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・事前学習では、南魚沼について自ら課題をたて、調べ学習を行った。このことで、現地での活動の視点が明確になり、課題を追究し、事後学習でまとめることで、総合的な学習の時間のめあてを達成することができる。
- ・自らの課題に基づいて学習を進め、学習したことが現地での活動に生かされた。活動を通して疑問が明らかになることで、自主的な問題解決学習の姿勢が身に付いた。
- ・自分のことは自分ですするという自立性が高まった。班の友達と協力して学習し、生活する体験を通して、学年や学級という集団の絆が強くなった。

○セカンドスクールとの関連について

- ・セカンドスクールでは、稲刈りを行うので、プレセカンドスクールの田植えと系統性をもたせて、米作りの学習ができた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・八海山の自然体験活動は、4年生の体力でも到達可能な漕ぎ池までのトレッキングを予定していたが、雪のため行けなかった。その分山頂的付近と山麓駅付近でのトレッキングができてよかった。漕ぎ池は達成感が少なく、展望が悪いので、今年のコースがよかった。

第四小学校

10月13日～10月15日(2泊3日)

○日程表

10月13日(水)		10月14日(木)		10月15日(金)	
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	片品村東小川着、開校式	8:30	尾瀬ハイキング出発	8:00	荷物整理
12:00	昼食	11:00	山の鼻	9:15	うどん作り体験
13:00	稲刈り体験	11:30	昼食	11:00	昼食
15:00	わくわく体験館周辺散策	15:00	各宿着	11:45	閉校式、片品村出発
16:00	各宿に移動し顔合わせ	16:30	宿の方からのお話	15:30	学校到着、到着式
18:00	夕食	18:00	夕食	16:00	解散
19:30	入浴	19:30	入浴		
20:00	健康観察・学習の記録	20:00	健康観察		
21:00	次の日の準備、就寝準備	20:30	学習の記録・就寝準備		
21:30	消灯	21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・ プレセカンドスクールのめあてについて
- ・ 集団での宿泊に関する心構えについて
- ・ グループ編成と係の仕事について
- ・ 持ち物について
- ・ 群馬県片品村について
- ・ しおりの活用の仕方とスケジュールについて

② 事後の学習内容

プレセカンドスクールでの3日間の体験と感動について作文を書いた。また、一人一課題についてさらに調べ学習を進め、国語科「アップのルーズで伝える」の単元と関連をもたせ、新聞作りに取り組み、3年生に対しての報告会で発表した。

《調べ学習の主な内容》

- | | | | |
|---------|--------|--------|----------|
| ○片品村の自然 | ○稲刈り体験 | ○尾瀬の自然 | ○うどん作り体験 |
| ○花豆 | ○りんご | ○小麦 | ○片品村の生き物 |

群馬県利根郡片品村

参加人数 男子31名 女子33名
計64名

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、稲刈り体験

黄金の田んぼの中で初めて鎌を持ち、ざくざくと刈り取り、束ね、天日干しのために掛ける、という一連の作業をあきらことなく一生懸命やり続けた。

稲刈り機のデモンストレーションや田の周辺での生き物の観察にも時間を忘れて楽しんだ。



【稲刈り体験】

2、尾瀬ハイキング体験

農協観光協会ガイドの方に付き添って頂き、案内に耳を傾けながら、紅葉真っ盛りの尾瀬の自然の中を散策した。木道では、熊や鹿が通った跡などを見たり、川では、サンショウウオを見たりと、自然を満喫しながら約2時間かけて休憩ポイントの山の鼻に到着した。その後、尾瀬ヶ原の中にある牛首で、紅葉した草紅葉の中で昼食をとった。

帰路は、上り坂が続いたが、友達同士励ましの声を掛け合いながら、全員無事に鳩待峠まで歩くことができた。



【尾瀬ハイキング】

3、うどん作り体験

小麦粉のそのものをこねて、うどんを作るという体験はほとんどの児童が初めてであったため、活動中は、歓声や驚きの声がたくさん聞かれた。上手く作業が進まなくても、宿のお母さんが各班に付き添って、手助けをしてもらいながら進めることができたので、ほぼ同じ工程で活動を進めることができた。また、この体験活動がお母さんとふれ合う最後の機会でもあり、2泊3日間にすっかり打ち解けた様子やしっかり技を教わろうとする姿勢も見られ、温かい雰囲気の中で体験活動を楽しむことができた。できあがったうどんは、「今までで食べたうどんの中で一番おいしかった。」と語る児童もあり、自分で作ったものを食べる充実感や友達と協力して作ったおいしさを実感することができた。



【うどん作り体験】

＜学習体験活動＞

- ・各宿で、片品村について、冬の生活について、野菜を作る作業などについてのお話をうかがい、児童の質問に答えていただいた。
- ・稲刈り体験では、稲の刈り方や、食べ物大切さを教えていただいた。

＜生活体験活動＞

- ・初めて会った方にお世話になる体験をすることで、自分のことを自分自身ですることや、友達と協力しながら生活することを学んだり、他人に親切にしてもらう温かさを感じたりすることができた。
- ・細かい荷物の管理、食事やお風呂でのマナー、宿での過ごし方を体験することで、セカンドスクールへの見通しをもつことができた。
- ・実際に集団での宿泊体験をすることで、友達と寝泊りし一緒に活動する楽しさを知り、セカンドスクールへの期待をもつことができた。

○児童の感想

- ・稲刈りでは、鎌を動かすことがむずかしくて、ひもでしばることも力がいりました。初めてのことばかりだったけど、稲刈り体験で片品村の自然とふれあえたと思います。
- ・宿のお母さん・おばあさんが、とても優しくかったので嬉しかったです。おばあさんのお話では、片品は野菜がたくさん作れる所、とても寒く紅葉が早い、豆が特産物、片品村は合ぺいをしていないことなど、片品村のことがよく分かりました。
- ・尾瀬ハイキングで一番心に残ったことは、帰り道です。帰り道はほとんど上り坂だったので、すごく疲れました。ラストスパートになると、少し元気が戻ってくる感じがしました。
- ・今日は初めてうどん作りをしました。一番心に残ったことは、せいめん機を使ったことです。私は初めてせいめん機を使ったので、とても嬉しかったです。最後みんなで食べてみたら、とてもおいしかったです。今度は家族みんなに食べさせたいです。
- ・宿のおばあちゃんに尾瀬のことについて聞きました。一番きょう味をもったのは、ばんご飯に出た花豆です。名物の豆類は、東京では見られない初めての豆でした。他にも黒いエンドウ豆がありました。東京にないものが見られてよかったです。

○保護者の感想

- ・ずいぶん前からプレセカンドスクールのことは楽しみにしていて、準備も着々と進んでいました。帰ってきてからは、行く前以上に家の手伝いを率先してやっています。成長したと思います。
- ・普段出来ない貴重な体験をさせて頂き、とても感謝しています。他の地域では、行ってないらしいですが、素晴らしいプログラムだと思います。是非、今後もずっと続けて下さい。
- ・健康調査票の記入なども忘れずに自分で管理していました。班長ということもあってか、

日程を暗記するなど、しおりもよく目を通していました。良い意味で緊張感をもてたことがプラスになったと思いました。

- ・準備するのも楽しくて、何を持っていくのか、何を買うのか、親子で会話する機会も増えてよかったです。
- ・大きな事故もなく無事実施できて良かったです。親の方は「今頃何をしているのか。」と不安がありましたが、ホームページでの「速報」はとてもいいですね。今後も続けて頂けたらと思います。

○ 総合的な学習の時間との関連

「出会いふれあいプレセカンドスクール」という単元設定をしているが、児童の実態から、まずは現地に行き自然の中での体験そのものを最重要視した。事前学習では、現地での生活や集団行動について学ぶことに主眼を置き、友達や指導員、宿の方たちとの現地での体験に期待がもてるようにした。

事後は、3年生への報告会や保護者の方への発表で「片品で味わった感動をおうちの方や3年生に伝えよう」ということで課題別に新聞作りに取り組んだ。

○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールの前段階として、短期間の宿泊を体験することを通して、宿の方々とのふれあいを大切にする心や、進んで自然と親しもうとする心、集団生活上のマナーやルールを大切にする態度を育むことに重点を置いた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・昨年度の引継ぎ事項から、尾瀬のハイキング中にトランシーバーを携帯し、連絡を取り合うようにした。しかし、各トランシーバーの距離が開きすぎると電波が届かず連絡が取れないこともあった。各職員の配置や連絡体制を検討する必要がある。
- ・10月の片品の気温は非常に低く、防寒の重要性を感じた。児童への事前指導はもちろん、保護者説明会での十分な説明と徹底を促したい。
- ・看護師は、セカンドや日光などで度々本校に来ている方なので、児童の様子をよく把握して、心身両面から適切な処置をしてもらった。何よりの大きな力を發揮していただいて助けられた。また、教員との意思疎通もよくとれ、一丸となって対応することができた。

第五小学校

10月20日～10月22日(2泊3日)

○日程表

10月20日(水)		10月21日(木)		10月22日(金)	
8:15	出発式	6:30	起床	6:30	起床
		7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	開校式	8:45	自然観察(虚空蔵山)	8:45	農作業体験(りんご狩り)
12:00	昼食(ふじやまビレッジ)				
13:00	川場村散策	12:00	昼食	11:30	S L 見学
		13:15	酪農体験	12:00	昼食
				13:00	閉校式
16:00	避難訓練				
16:45	入浴	16:45	入浴	16:30	解散式
18:00	夕食	18:00	夕食		
19:00	日記書き	19:00	夜の散歩		
		20:00	日記書き		
21:00	消灯	21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- 群馬県利根郡川場村は5年生のセカンドスクールの実施地でもある。事前の学習として、3年生の時に、当時の4年生の「プレセカンドスクール報告会」を聞き、川場村でのおおよその活動内容を知った。また、図書館から川場村の資料を取り寄せたり、パソコンを使つての調べ学習を実施したりした。調べる事柄を具体的に示すことで、意欲的な活動ができた。
- 9月に入ってしおりを配布し、行程や集団生活でのきまり、約束事を確認した。また、活動の中から、自分がテーマとして調べていくものを決め、国語科の「アップとルーズで伝える」の学習と関連づけ、いつ、どこでどんな写真を撮るか考えさせることで興味をもたせた。
- 班編成は、クラスごとに男子8つ、女子2つの生活班を決めた。活動班は、自分の調べたいテーマごとに合計6つの班を編成した。(生活班とは別の編成)その後、生活班の中での係を決めたり、班の目標を決めたりして、より行動しやすいようにした。
- 初めての宿泊行事であり、全体指導として、集団活動で大切なことを始め、部屋での過ごし方や、宿泊を伴う際のきまり、保健指導を実施した。
- プレセカンドスクールから帰ってきてからは、3年生対象の報告会や学習発表会に向け体験したり学んだりした内容を発表することを児童に伝え、効果的な方法を考えるよう指導した。

群馬県利根郡川場村

参加人数 男子29名 女子22名
計51名

② 事後の学習内容

- ・国語で学習した「アップとルーズ」の視点を元に、各活動班のグループで撮影した写真を使い、自分たちがメモしたことを中心に発表にむけての資料をまとめた。学習発表会では、立候補により実行委員を決め、司会進行を務めさせた。また、①ふじやまハイキング、②虚空蔵山ハイキング、③牧場体験、④りんご狩りの4グループに分かれ、自分たちで台本を考え、効果的な伝え方、表現力を指導し、4分間ずつの劇を工夫して発表した。
- ・3年生に向けては、①ふじやまハイキング、②虚空蔵山ハイキングA、③虚空蔵山ハイキングB、④牧場体験、⑤関りんご園、⑥宮田りんご園の6グループで模造紙を用いたポスターセッション、紙芝居、模擬体験など発表の仕方をグループごとに考え、総合的な学習の時間の中で準備し、伝える活動を行った。3年生にとってはプレセカンドスクールの事前学習となると同時に、学校全体としてセカンドスクールの在り方を3年生から5年生までの学年を通して系統付けて指導していけるように意図している。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、川場村を歩こう(村内散策)

プレセカンドスクール初日の活動として『村内散策』を行った。1グループ8～9人で、指導員と一緒にみんなで地図を見ながら、ふじやまビレジからホテルSLまで自分たちで歩いた。愛宕山と岩観音の2か所をチェックポイントとし、協力して探させ、訪れさせた。また、「武蔵野では見られない、川場村ならではのもの」、「秋を感じるもの」、「チェックポイントでの集合写真」など、必ず撮る写真を指定し、楽しみながら活動を行うことができた。子供たちは、途中で見つけた珍しい生き物や植物、建物の様子など、様々な写真を撮り、川場村ならではの自然を満喫することができた。5年生のセカンドスクールでは、目的地までの移動はほとんど自動車となるため、様々なものを見ながら村内をゆっくり歩いて回ることでできた今回の村内散策はとても有意義な活動であった。

2、虚空蔵山ハイキング(自然観察)

2グループに分かれ、1グループに2人のインストラクターがつき、二方向から「虚空蔵山」の山頂を目指した。道中、珍しい動植物を見つけたり、(アナグマの骨、キノコ、熊の足跡)全員で静かにして何の音が聞こえてくるかを確かめたりしながら、(鳥の鳴き声、風で葉が揺れる音)自分だけの宝物を探そうと、多くの植物にじかに触れ、自然を身近に感じながら、積極的に活動に取り組むことができた。また、「けもの道」を探そうということで、道なき道へ分け



【こんなガケ登るんですか？】

入り、普段にはできない活動を経験することができた。頂上の展望台からは川場村を一望することができた。

＜学習体験活動＞

1、夜の散歩

1日目、2日目共、曇っていて星の観察は実施できなかった。そこで2日目の夜にホテルS Lのそばにあるふれあい橋の下まで歩いて行き、武蔵野の夜と川場村の夜とでの温度、音、明るさなどの違いを体感した。懐中電灯の灯りを一時消し、聞こえてくる川の流れや虫の声に耳をすませ、環境の違いを実感することができた。

2、酪農体験(乳搾り)

当初、宮崎県の口蹄疫の広がりを受け、牧場見学は実施できない可能性が高かったが、直前に解除宣言が出て、交渉を繰り返した結果、見学できるようになった。川田牧場の牛舎には約90頭の牛がいて、実際に見る牛の大きさに子供たちは驚きの声を上げていた。酪農家の話では、牛の胃袋が4つもあることや消化の仕方、乳牛と肉牛の違い、生まれたら角を焼ききってしまうことなどがあった。児童は興味をもって真剣にメモをとりながら聞くことができた。乳搾り体験では、牛の乳の温かさや乳首の感触などを自分の言葉で表現している子供が多くいた。また、牛にじかに触れることにより、命の大切さ、ぬくもりを感じ取ることができた。活動の最後には、殺菌済みの牛乳を味わい、そのおいしさに大喜びしていた。



【ちょっと怖いけど…食べる？】

3、農作業体験(りんご狩り)

宮田農園と関りんご園の2か所に分かれ、りんご狩り体験を行った。りんごの種類や歴史、川場村でりんご栽培が盛んなわけなどを話していただくとともに、事前に考えてきた質問にも答えていただいた。その後、もぎ方を教えてもらい、自分でおいしそうなりんごを選び、楽しんで活動を行うことができた。その場でりんご半分を試食することもでき、みずみずしい味を堪能することができた。さらに、古民家の中を見せていただくこともでき、農家の暮らしや、民家の作りなどにも興味をもって見学していた。

＜生活体験活動＞

今回のプレセカンドスクールが初めての宿泊体験である子供が多かったので、事前に、時刻を守ること、入浴の仕方、布団の上げ下ろしなど細かく指導した。現地では、生活指導員のきめ細かな指導のもと、自分たちの力で協力して行うことができるようになった。3日間の生活を通し、協力することや自分のことは自分で行うことの大切さについて学ぶことができた。また、集合時刻に間に合うように早めに行動することも意識することができるようになってきた。

○児童の感想

- ・川場村散策で、武蔵野にはない、色々なものを発見しました。稲刈りが終わり、藁が干してある様子や、ありじごくの巣、茶色の蛇など、思わず立ち止って観察していたので、予定よ

りホテルに戻る時間が遅くなってしまいました。

- ・虚空蔵山の登山では、道の無いところを登るので、大丈夫かと心配でしたが、頑張りました。押すと煙のようなものが出るキノコを見つけたときはびっくりしました。
- ・牛の乳しぼりでは、最初できるかと不安だったけれど、丁寧に教えてもらい、たくさんしぼることができた。牛の体に触ると温かく、高級なじゅうたんのようでした。また、しぼりたての牛乳は甘くておいしく、何杯もおかわりしてしまいました。
- ・私は、バス酔いや宿泊が少し不安でしたが、みんなで協力したり、話し合ったりして、とても楽しく過ごすことができました。指導員の先生とも仲良くなれてよかったです。

○保護者の感想

- ・帰ってきてから色々なことを話してくれました。一つ一つの活動に驚きや喜び、発見があったようで、自分が体験してきたことを詳しく教えてくれました。
- ・初めての宿泊で不安もありましたが、自分の荷物を自分で準備したり、食器の片付けを進んでするようになったりして、確かな成長を感じることができました。
- ・自分の担当する仕事について、自覚や責任感が高まってきた。

○総合的な学習の時間との関連について

本校の4年生の「総合的な学習の時間」の年間テーマは「環境を考えよう、自然に親しもう」となっている。プレセカンドスクールでは、事前に自分の興味のあるテーマを選び、本やインターネットを利用してテーマに関する情報を集め、実際に現地で実体験をもとに理解を深めていった。「課題解決型学習」を意識し、自然について自ら課題を設定し、さらに、同じテーマのグループごとに、わかったことをまとめ、3年生や保護者に向けて発表することにより、課題設定の力や、追究する力、まとめる力を育てていけるように活動を展開した。

○セカンドスクールとの関連について

本校では、今年度まで、プレセカンドスクールとセカンドスクールの実施地が同じである。これにより、子供たちは、長期滞在であるセカンドスクールでも同じ土地に宿泊できるという安心感をもつことができた。これまでは米の田植えと収穫、リンゴの摘花と収穫というように、4、5年生がそれぞれの体験活動を交互にすることで、活動につながりをもつことができた。しかし、宿泊先のホテルの改装や学校行事の時期の変更により、同一の実施地で行うのは、今年度が最後となる。

○次年度に向けての反省・課題

ホテルS Lの施設が改装のため、今年度で川場村でのプレセカンドスクールが終了する。次年度は山中湖での活動となり、内容も富士山五合目中道散策、東大演習林フィールドワーク、ほうとう作りと大幅に変更する。新たなフィールドで、いかに5年生での川場村セカンドスクールに結びつけていくのが今後の課題である。

大野田小学校

10月6日～10月8日(2泊3日)

○日程表

10月6日(水)		10月7日(木)		10月8日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察・検温	6:00	起床・健康観察
8:00	学校出発	6:30	朝会・体操	6:30	朝会・体操
	首都高速(湾岸線)	7:00	朝食・活動の準備	7:00	朝食・荷物整理・部屋整理
10:00	うみほたる見学(トイレ休憩)	8:20	沖ノ島へ出発	9:00	房州うちわ作り始め
11:30	野鳥の森着(昼食)		(探検・ビーチコーミング)		(ホテル内)
13:00	砂山着(サンドスキー)	12:35	宿舎に戻り昼食	11:00	房州うちわ作り終了
16:30	夕日海岸ホテル着	14:00	海の生き物の話(ホテル内)	11:50	閉校式 ホテル出発
17:00	開校式・荷物整理・避難訓練		貝の標本作り	12:15	館山城着(昼食)
18:00	夕食	16:30	入浴	13:15	館山出発
20:00	入浴	18:00	夕食	14:20	うみほたる着(トイレ休憩)
	1日の反省・記録	19:15	ウミホタル観察	16:30	学校着・解散式
21:00	荷物整理・班長会・健康観察	20:30	1日の反省・記録		
21:20	就寝準備・消灯	21:00	荷物整理・班長会・健康観察		
		21:20	就寝準備・消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習の内容

- ・プレセカンドスクールのめあてについて
- ・千葉県や館山市のようすについて
 - 千葉県や館山市の位置や土地のようす、歴史、特産物、産業などの特徴
 - 沖ノ島の土地のようす、自然のようす(植物・生き物など)
- ・房州うちわについて(夏休み中に下絵を描き、9月に図工でうちわの絵の作成を行った)
- ・東京湾の特色(アクアラインについて) ・首都高速道路、館山道などの交通について
- ・保健指導(体の成長の変化について、女子の初潮指導など)
- ・集団行動のルール・集団生活のマナーについて

② 事後の学習の内容

- ・2泊3日の体験や課題学習について振り返り、作文などにまとめる。
- ・学習課題ごとにグループで体験活動のまとめを行い発表会を実施した。
- ・2学期末、今の3年生に対してプレセカンドスクールについての説明会を行う予定である。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、砂山でのサンドスキー

サンドスキーは、2年前から行っている体験活動である。砂山の上から見ると、かなりの急傾斜で、児童も驚いていた。館山の体験交流協会の方の話によると今後10年か20年ほどでこの砂山はなくなるのではないかと、ということであった。

はじめはうまく滑れなかった児童も、友だちの滑り方を真似しながら体重のかけ方を覚え、徐々に滑れるようになった。



【砂山でのサンドスキーは登るのが大変】

サンドスキーは、滑ってからまた上に登るのが大変で、途中で疲れてしまう児童もいたが、身体をたくさん動かし、十分満足できたようである。15名いる指導員にも、児童の安全管理をしてもらった。

スキー用のそりは学校の総合的な学習の時間の予算で購入しており、2人に一台ある。滑った後、衣類や靴、身体についた砂をはらうのが大変だったが、バスの乗務員の方も協力してくれた。

2、ビーチコーミング

2日目は午前中に沖ノ島でビーチコーミングを行った。午前8時20分、マイクロバス3台に分乗して出発。児童の人数が多いため、二度に分けて送迎することになった。当日は太陽が隠れ風は強く、若干肌寒さを感じたが、この活動のときだけ雨が降らず、予定通りに行うことができた。館山の海の特徴や海流の影響、サンゴの話など、現地の「海辺の鑑定団」のガイドの方の説明を聞きながら、沖ノ島の海辺を探索して歩いた。児童が次々と持ってくる海草や貝殻の名前を、「海辺の鑑定団」の方が丁寧に教えてくれ、興味をもたせてくれた。クラス単位で、4名のガイドが案内してくれたので、説明も聞き取りやすかった。児童は砂浜に無数にある貝殻の中から、珍しいタカラ貝を探したり、潮だまりのカニを捕まえたりして、夢中になって活動を楽しんだ。ここで拾った貝殻などを家へのおみやげにと持って帰る児童も多かった。当日午後からの貝の標本作りにもこの体験が生かされたようである。ただ、タカラ貝は年々見つかりづらくなっていて、三分の一くらいの児童しか見つけることができなかったようである。

また、戦時中砲台となったという岸壁や東京湾の出入り口として敵の飛行機を見張る場所としての役目や真っ暗な洞窟は、大変興味深く観察していた。ここでは地層もはっきりと見られ、

6年生の理科の学習でも生かされることと思う。こうした体験は、児童の自然への好奇心を引き出し、意義ある体験活動となったようだ。ただし、せっかく海辺に来ているのだから、海に入り、よりたくさんの海の生きものと触れ合わせる活動も取り入れるべきではないかと思う。来年度は、その点も現地の方と十分な打ち合わせをし、検討していきたい。



【タカラ貝を見つけるぞ！沖ノ島でのビーチコーミング】

3、ウミホタル観察

2日目の夜、ホテルの方が捕まえてきてくれたウミホタルの観察会を実施した。はじめに、ホテルの方がウミホタルについての生態や人間との関わりなどを説明してくれた後、部屋を暗くしてたくさんのウミホタルの入ったパネル水槽に弱い電流を流すと、おびたどしい数の海ホタルが一斉に美しい青色に発光し、子供達はその神秘的な光景に歓声をあげ、とても感動していた。ウミホタルを学習課題にして研究していた子も多かったが、実際に発光の様子を見ることができ、貴重な体験となった。

<学習体験活動>

1、アクアライン「うみほたる」見学

アクアラインについては事前にある程度学習して行った。海底トンネルと海上の自動車道の違いを目で見て比較したり、資料館「海めがね」で、トンネル内の換気の工夫やシールドマシーンについて模型などで確かめたりすることができた。天気にも恵まれ、「うみほたる」から東京湾の様子などを観察した。

2、海の生物の話と貝の標本作り

2日目午後、ホテルに戻り、昼食後に海辺の鑑定団の方による、海の生き物の話と貝殻の標本作りを実施した。児童は、午前中自分達が拾ったものから紹介し名前など説明を受けた。また、貝殻の標本作りは、説明がとても分かりやすく、どの子もすばらしい標本を作り、その活動を通して、貝の名前をすぐに覚えてしまう児童が多かった。そうした説明の中で、人間の活動と海との関係にも触れ、環境教育の一環としても意味のある内容であった。

<生活体験活動>

1、房州うちわ作り

房州うちわ作りは現地のうちわ職人の方に指導していただいた。児童があらかじめ学校で仕上げてきた表裏2枚の絵を使って作成し、一人一人が自分のうちわを自分の手で仕上げることもできた。竹に糊を塗り竹の骨の間隔を調節する。竹の骨に絵を貼る。乾いたらへりに細い薄紙を貼って仕上げる。全24工程のうちの3工程だけであったが、なかなか難しく、手作りの大変さや伝統工芸のすばらしさを学ぶことができた。

○児童の感想

- ・ビーチコーミングでは、とても苦勞したけど、タカラ貝とコトコト貝を拾えて良かったです。貝の標本作りでは、よい作品が作れてとても満足しました。記念に飾っています。
- ・ウミホタルが青く光っているところは本当にきれいでした。あんなきれいな生き物が年々少なくなっているのは残念です。海を汚さないでほしいです。
- ・千葉県の伝統的工芸品である房州うちわを、実際に作ることができてとてもうれしかったです。職人さん達の早業には驚きました。
- ・サンドスキーでは初めはうまくすべることができなかったけれど、指導員の先生や友達に教わって体重のかけ方が分かってきました。友達といっしょにすべってころんで、二人で大笑いしました。

○保護者の感想

- ・家までの帰り道、大事にズボンのポケットに入れて持ち帰った貝についての説明を、一生懸命してくれました。その様子からも、3日間とても楽しかったんだろうと思いました。
- ・集団行動でのマナーやルール、グループ内での役割分担などきちんとできたと聞き、良かったと思います。自分の持ち物の管理もできました。とても楽しいプレセカンドスクールになったと思います。
- ・団体行動では、時間を守る事や、お互いに声を掛け合って、みんなで助け合って行動したことなどが話から伺えました。楽しかったようで、親としても嬉しいです。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・1学期に館山の自然や文化について簡単に調査し、それぞれが自らの課題を決めた。
- ・館山への交通、館山の自然、アクアライン等については、事前に学習して臨んだ。
- ・夏休みに館山について調べる活動をし、行く前に自由研究の発表会を行った。
- ・プレセカンド後に作文にまとめ、課題ごとのグループでまとめの発表会を実施した。
- ・『3年生に伝えよう』として、プレセカンドスクールの発表会を行う予定である。

○セカンドスクールとの関連

- ・今回の自らの課題について下調べをし、現地で調査しまとめるという体験は、セカンドスクールでも十分に生かされ则认为る。
- ・学校行事として初めての集団宿泊体験は、子どもたちの自信と来年への期待につながった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・児童数および学級数の変更にともない、宿舎の部屋数や配置について早めに調整をしていく。
- ・引率教員が事前に引き継ぎをしっかりと行い、早めに実地踏査をして計画を立てていく。
- ・雨天時プログラムを柔軟に実施するための予算措置を依頼していく。
- ・児童への指導内容に関して現地指導員との打ち合わせを十分に行っていく。

境南小学校

10月6日～10月8日(2泊3日)

○日程表

10月6日(水)		10月7日(木)		10月8日(金)	
7:50	学校集合・出発式	6:00	起床、検温、健康観察	6:00	起床、検温、洗顔
8:15	学校出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
9:30	談合坂SA(トイレ休憩)	7:30	朝食	7:30	朝食
10:15	ビジターセンター見学	8:30	片付け、荷物整理	8:30	片付け、清掃
11:20	富士五合目着、昼食	9:00	宿舎出発	9:00	閉校式、宿舎発
12:30	五合目周辺トレッキング	9:30	野鳥の森公園着、樹海ハイキング	10:10	ぶどう園着、農業体験
15:15	スバルライン駐車場発	11:30	富岳風穴見学	12:45	昼食
16:00	宿舎着、開校式、	12:30	道の駅かつやま着、昼食	13:50	ぶどう園出発
16:15	荷物整理、避難訓練	13:30	河口湖畔ハイキング出発	14:30	談合坂SA(トイレ休憩)
16:30	入浴、活動の記録	15:30	宿舎着、荷物整理、	15:30	学校着、帰校式
18:30	夕食	16:30	入浴、ちぎり絵制作		
19:30	絵手紙かき	18:30	夕食		
20:45	健康観察	19:30	星空観察		
21:00	消灯	20:45	健康観察		
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・初めての宿泊体験に向け、集団行動のルール・集団生活のマナーについて指導した。特に、集団活動を楽しく安全に行うには、時間を守って行動することやきちんと整列すること、一人一人がしっかり話を聞くことが大切であることを確認した。
- ・係ごとに必要なルールやマナーを話し合い、食事や入浴の仕方などの約束を決め、全体で確認し、実行できるようにした。
- ・自主的に活動できるよう、班長を中心に児童が考えたスローガン「おたがいに ルールを守って 気持ちよく」を設定し、初めての宿泊行事をみんなで協力し合って気持ちよく過ごせるよう心がけた。
- ・総合的な学習の時間に現地で行う体験活動について知らせ、自分がどんなことを調べたいか考えさせた。
- ・体の成長と変化、女子の初潮など第二次性徴について養護教諭と協力して保健指導を実施した。

山梨県南都留郡富士河口湖町

参加人数 男子39名 女子37名
計76名

② 事後の学習の内容

- ・2泊3日の宿泊体験や自然体験、農作業体験、友達との交流など、プレセカンドスクールの思い出を振り返り、作文にまとめた。
- ・12月中に行う予定のプレセカンドスクール学習発表会に向け、体験活動のまとめを行っている。まず、各自が現地で体験したことから、発表内容を考え、絵や図に表したり、発表原稿を作ったりしている。そして、自分の伝えたいことをまとめ、発表練習をし、アドバイスをし合いながら、次年度にプレセカンドスクールを体験する3年生に、プレセカンドスクールの宿泊体験の様子や自然体験のすばらしさなどを伝える予定である。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、トレッキング

富士山5合目で昼食をとり、その後、2班に1人ずつのボランティアガイドの案内で、五合目周辺（御中道コース）のトレッキングを行った。ボランティアガイドから、火山岩や富士山特有の植物などについて説明を聞きながらのハイキングで、途中、カラマツやダケカンバの枝が一方向に伸びている理由を聞いたり、変わった色や形の火山岩を見たりしては驚いていた。

トレッキング中は、あいにく雲がきれることがなく、富士山の山頂を見ることはできなかったが、ボランティアガイドの説明のおかげで、富士山特有の植物の観察ができ、富士山の自然にふれ、十分満足できたようである。

2、青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学

ハイキングコースになっている道を歩いたが、道案内の標識がなく、どこへ出られるのかわからない分かれ道があり、1学級ずつガイドに案内してもらった。苔の生え方や形、木の根の様子など、樹海特有の植物や生息する生き物などについて説明を聞きながらハイキングを行った。りすが松ぼっくりの固い部分を食べ残したものを「森のエビフライ」と呼んでいると教わり、みんなとてもおもしろがり、自分でそれを見つけ

た児童は大喜びしていた。他にも朽ちてなくなった大きな倒木の後の穴や溶岩石や溶岩洞窟などを目にしたり、磁石が使えないところがあることを知ったり、何百年もの歴史を感じさせる自然に浸ったハイキングであった。富岳風穴では、夏でも氷が残っていると聞き、中の寒さに驚いていた。樹海ハイキング中に、溶岩洞窟は、昔は蚕のさなぎや植物の種などの貯蔵庫として、また天然冷蔵としてかつては使用されていたと説明を聞いたが、実際に入って



【森のエビフライ】

みて実感したようだ。

3、河口湖畔ハイキング

樹海ハイキングを終えた頃は、「もう歩くのは嫌だ」と言っていた子どもたちだったが、昼食を食べ終わるとすっかり元気を取り戻した。一度トイレ休憩をとっただけで、2時間ほどの河口湖畔ハイキングを、湖のボートや周りの景色を楽しみながらしっかりと歩いていた。

＜農業体験活動＞

1、ぶどう園農作業体験

ぶどう園に到着し、まず、活動についての説明を聞いた。今年度は2種類のぶどうの収穫作業体験をした。初めは斜面での収穫作業であったが、はさみで枝を切る際に、切ったぶどうを落とさないように片手で支えるなど、現地指導員の方の指導で安全に作業ができた。次の畑へ移動する際、土地が荒れるのを防ぐため、休耕畑で草やだめになったぶどうを食べさせて牛を試験的に飼っているという説明を受けた。



【ぶどうの収穫作業体験】

収穫作業体験後、虫から木を守るための「木の皮むき」、雨や葉から実をカバーするふくろを、使い捨てではなく再利用するための「ふくろふき」、ぶどうの木に栄養が行き渡るようにするための「草取り」の3つの体験をローテーションしながら行った。木の皮むきをしながらぶどうの木を見上げ、1本の木からいろいろな方向に枝がのび、そこにたくさんのぶどうが実っていることに気付き、驚いていた。それぞれの作業の意味を理解した児童は、意欲的に作業を進めた。作業終了後、指導してくださった現地の方々から「みんながとても熱心に作業をしてくれてうれしい」とほめていただいた。現地の方の話や実際の体験を通して、おいしいぶどうができるまでの働いている方々の努力や苦勞、また食べ物の大切さに気付くことができ、大変有意義な活動であった。

＜学習体験活動＞

1、絵手紙かき

1日目の夕食後、「プレセカンドスクールの思い出を届けよう」と絵手紙かきを行った。たいていの児童は富士山を題材にしていたが、富士山全体をとらえてかいたり、実際に目にして印象に残った植物の絵をかいたり、表現の内容はさまざまであった。

2、ちぎり絵制作

2日目の夕食後、星空の観察があまりできなかったので、グループごとに大きな画用紙に色紙でちぎり絵を作った。題材はここでも富士山が多かったが、1つの絵だけではなく、ぶどうや紅葉なども入れて、構成をよく考えて作成しているグループも見られた。

○児童の感想

- ・富士山で、初めて見る植物がたくさんあった。何百年も前の噴火のあとが残っていてすごい。

- ・富士山の木が雪の重みで倒れていると知って、雪がそれほど重いのだととても驚いた。
- ・溶岩は重いと思っていたのに、軽かった。色も赤や黒などいろいろだった。
- ・樹海の中で、こけと、木と、木の根が支え合っているという話に驚いた。
- ・農作業体験をしてぶどう園の人の1つ1つの作業の大変さやぶどうを育てる苦労がわかった。
- ・何もかもみんなで協力したからできたのだと思った。
- ・自分1人でも身の回りのことができるというやる気が出てきた。

○保護者の感想

- ・長時間お友達と過ごすことは「ゆずったり、ゆずられたり」とがまんも多くなりますが、それは「特別なこと」ではなく「あたりまえのこと」になってくれるといいなと思いました。
- ・富士山トレッキングやお友達同士での班行動などは、忍耐力や協調性が養われとてもいい経験になったと思います。
- ・今まで体験したことのないことや楽しいことがいっぱいできよい思い出になったみたいです。

○総合的な学習の時間との関連について

1学期に「給食から見える世界」の単元を学習し、食の大切さについて学んだ。ぶどう園の農作業体験では、実際に作業を体験したり現地の方の話を聞いたりして、作る人たちの苦労や食べ物大切さを実感することができた。また、プレセカンドスクール後、学習のまとめを行い、自らの力で課題を解決しようとする力を育てていきたい。

○セカンドスクールとの関連について

プレセカンドスクールで親元を離れて宿泊し、長時間にわたる友達との集団生活を経験することにより、自信をもって来年度のセカンドスクールに臨めるようにと考えて計画・実施した。事前指導では、集団生活の中で全員が楽しく気持ちよく生活するために大切なことは何かを考えさせ、自分たちで約束を決め、実行できるように促した。また、実施後、1人1人が自分の課題をもち、追究する学習を行った。この学習で学んだ課題の決め方、調べ方、分かりやすく伝える方法などは、セカンドスクールで取り組む活動に生かされるものであると考える。

○次年度に向けての反省・課題

- ・富士山5合目でのトレッキングでは、ボランティアガイドに案内をしてもらい、富士山の自然について説明を受けながら活動できたことがよかった。
- ・初冠雪以降で、風が冷たく寒い時期なので、十分な防寒対策が必要である。
- ・青木ヶ原樹海ハイキングは、何百年もの自然のままの樹海を歩くという、通常ではなかなかできない体験であるが、学校行事として集団で行うにはリスクが大きいと考えられるため、次年度は別の活動を計画したい。

本宿小学校

6月9日～ 6月11日(2泊3日)

○日程表

6月9日(水)		6月10日(木)		6月11日(金)	
8:00	学校出発	6:30	起床・健康観察・洗面	6:30	起床・健康観察・洗面
10:00	上里SA(トイレ休憩)	7:00	朝食・清掃・寝具整理	7:00	朝食・清掃・寝具整理
11:30	八海山到着・開校式	8:30	坂戸山登山	8:00	八海山ロープウェイ
12:00	避難訓練・昼食	11:00	山頂・昼食		温度調べ・地形鳥瞰
13:00	田植え体験	12:00	下山	9:30	山菜狩り
		14:30	ソバ打ち体験	11:30	昼食
16:00	プレセカンドの過ごし方	16:00	荷物整理	12:30	閉校式
17:30	夕食準備	17:30	夕食準備	14:30	上里SA(トイレ休憩)
18:00	夕食	18:00	夕食	16:30	学校到着
19:00	天体観測・入浴	19:00	入浴		
20:00	民宿の方との交流会	20:00	民宿の方とのお別れ会		
21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝		
21:30	消灯	21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・前年度の4年生から、事前にプレセカンドスクールの様子について知らせてもらっていた。その上で、本年度になり自分達の調べたい課題について考えた。六日町の土地・地形・気候・農業・生き物・交通・歴史・星座などについて子ども一人一人が「学習の課題」を持ち、図書室の本や資料、インターネットなどで調べ、現地に臨んだ。
- ・お米について調べたグループは、BL コシヒカリといういもち病に強く、農薬が少なくても栽培できる品種などについて調べるとともに、農家の主な仕事や農家の方に聞いてみたいことなどを具体的に準備し、農家のおじさんに聞き取り調査できるようにした。
- ・また、「生活の課題」を考え、各係で役割分担やマナーなどについて「しおりづくり」をした。今年度は、1クラスだったので、それを2つのペンションに分け、おのおののペンションで宿のお父さん、お母さんと十分な交流の時間がとれるように計画した。

② 事後の学習内容

- ・それぞれの学習班で課題別に調べたことを、模造紙などにまとめた。そして「総合的な学習の時間」を使って、来年度南魚沼市に行く3年生を招待してポスターセッションをした。児童は、3年生にもわかる平易な言葉で、南魚沼市での自分達の体験を発表することができた。

新潟県南魚沼市(六日町・八海山地区) 参加人数 男子30名 女子18名 計48名

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、坂戸山登山

朝から晴天の中、地元のボランティアや観光協会の方と一緒に登った。上杉景勝、直江兼続やその家臣たちの屋敷跡などの史跡を通り過ぎて、御館を横に見ながら一本杉で一回目の休憩をした。ここまで20分は軽いハイキングコースである。昨年度は、ここで数人の児童が登山をあきらめ引き返したが、今年度は全員が登山に挑戦し、桃の木平で2回目の休憩をとった。休憩後歩くこと10分、実城といわれる頂上まで全員が歩き切った。



【城戸山にて】

南魚沼盆地の眺めはすばらしく子どもたちは、山や盆地、川など地形の変化を眼下に観察した。記念撮影をして360度のパノラマの頂上でお弁当を食べた。下山道の薬師尾根コースのくさり場が今年度は改良され、危険も少なく比較的容易に下山できた。

2、山菜狩り体験

今年度は春の訪れが遅かったので、山菜狩りにはちょうどよい時期だった。八海山ロープウェイの乗り場付近は、格好の山菜狩りの場所である。地元の方々の先導で、山菜のみつけ方を教わりある場所に案内していただいた。子どもたちは様々な山菜をみつけて家庭へのお土産とした。

3、田んぼでの自然とのふれあい

活動の合間に児童をペンションの横の田に連れ出すことにより自然とのふれあいをさせた。今年は、春が遅かったために田の蛙が小さく、おたまじゃくしがたくさんいた。蛙とともにおたまじゃくしをみつけて飼育池を作って遊んでいた児童も多かった。子どもたちは「山がとてもきれい」「空気がおいしい」「風がひんやりする」など自然を体感したようである。

＜学習体験活動＞

1、コシヒカリの田植え体験

昨年度に引き続き、南に子どもたちが登山する坂戸山、東に宿のある八海山という絶妙のロケーションの田を「本宿小実習田」として提供していただいた。「本宿小実習田」と書いた立札のある田の前で最初に農家の方に、稲の持ち方や移動の仕方など田植えのこつを教わった。田んぼに裸足で入った子どもたちは熱心に田植えをして、30aの田を全て植え終わった。最後に田のあぜで、農家の方に稲作の苦労や工夫、生きがいなどを聞き取った。

2、そば打ち体験

ペンションより徒歩10分の体験施設「レイホー八海」の体育館でまず地元の達人からそば打ちの方法を教えていただいた。子どもたちは、あざやかな手さばきに息をひそめてみとれて

いた。続いて、小グループに分かれて、地元のおじいちゃん、おばあちゃんがついて、そば打ちの指導をしていただいた。南魚沼のそばは、「ふのり」でつなぐ独特のものである。初めてそば打ちをする児童が大部分で、おじいちゃんおばあちゃんと会話しながら、そばを打っていた。子どもたちは「粘土と似ている。」「かなりこねるのに力がいる。」「細かく切るのが大変だ。」などと言いながら、工夫をこらして一生懸命に作っていた。冷蔵庫に入れて、翌日の山菜狩りでとった山菜のてんぷらとともに、グループ別に自分たちが打ったそばを食べた

3、地形鳥瞰体験

温度計でふもとの温度を測り、ロープウェイで山頂まで行って再度温度を測った子どもたちは3度近く違う気温に驚いていた。標高差で同じ日でも温度が違うことを実感できたことは大きな成果だった。またロープウェイの終点の展望台からは見渡す限りの南魚沼盆地や上越国境の山々が見え子どもたちは感動していた。

＜交流体験活動＞

1、夜の交流会

昨年度交流会がうまくいかなかったので、今年度は1日目は教師が自己紹介や土地の人に聞いてみたいことや一緒にできる集いのゲームなど交流会のやり方を指導した。その経験をもとに、2日目はそれを児童がまねして民宿の方や指導員へのお別れ会を企画した。その結果、二つのペンションともに、スムーズかつなごやかにお父さん、お母さんとふれあうことができた。



【交流会】

2、共同生活のマナーと身辺自立体験

「自分のことは自分でする。」「他人に迷惑をかけない。」など共同生活のマナーや、身辺自立についての体験も多く行った。最初に避難訓練をしていざという時に自分の身の安全を守る体験をした。次に部屋の片付け方、風呂の入り方、食事の配膳方法、布団のたたみ方、正しい検温の仕方、部屋の整理整頓など集団生活の基礎的マナーを教師や指導員が指導した。

3、閉校式での集団演技の披露

閉校式では、ペンションの駐車場で、毎年度恒例となった運動会での表現種目、今年度は「花笠音頭」を披露した。ペンションのお父さんお母さんや観光協会、地元の方々などの拍手喝采の後、お別れとなった。2泊3日という短い期間ではあるが、地元の方々とかなり密度の濃い交流ができた。

○児童の感想

- ・青野さんや今井さんに田植えをやる時の足の抜き方や稲の植え方を教えてもらいました。熱かったし転びそうだったし、びっくりしたこともあったけど、カエルやおたまじゃくしも見られたのがおもしろかったです。自分が作ったお米を食べたいです。また田植えをやりたいです。
- ・ぼくが一番心に残ったのは、坂戸山登山だった。一度目の休憩の後がきつかったです。頂上に着いた時は心の中で「やったあ。」と思いました。
- ・山菜取りで一番取ったのはわらびで60こぐらいとりました。ほかにもヨモギとフキもとりました。

した。帰ったらペンションのお母さんとお父さんにワラビを半分あげました。そうしたら「ありがとう。」と言ってくれたのでうれしかったです。

- ・カエルはひっくり返すと死んだふりをしました。でもおなかにさわるとジャンプして逃げました。カエルは手でさわるとけっこうやわらかかったです。
- ・夜空を見ていると星がすごくきれいでした。東京とは全く違いました。六日町の星は大きく、星のかどが7個あり、星がくっきりと見えました。わたしは、星がすごく好きになりました。

○保護者の感想

- ・山菜の名前をいろいろ覚えて自慢げに帰ってきました。コシヒカリのお米がおいしかったらしく、何杯もおかわりしたそうです。実習田の稲刈りにもぜひ行ってみたいです。
- ・今まで家族でいろいろな地域に旅行しているのに、プレセカンドが一番楽しかったと言われてしまいました。

○「総合的な学習の時間」との関連

事前の学習では南魚沼という地域に期待を持たせるとともに「学習や生活の課題」を持たせた。事後の学習では、来年度南魚沼に行く3年生に向けて体験したことをわかりやすくまとめプレゼンテーションする発表会を行った。また、宿のお母さん、お父さんへの御礼を書く活動も行った。

○セカンドスクールとの関連

5年生の飯山セカンドスクールに向けて、集団生活の仕方や、稲作の季節による作業の様子などを調べさせた。また、民宿の方との交流会のやり方や、お礼の会の運営の仕方なども練習した。さらに教師がふたつのペンションに分宿し、指導員に仕事について指導し、本部形式の6つの民宿に分泊するセカンドスクールにおける指導に活かせるようにした。

○次年度に向けての反省

- ・新潟県南魚沼市六日町・八海山でのプレセカンドスクール実施も2年目となった。今年度は好天にもめぐまれ、すべての予定を計画通り実施できた。
- ・現地までの移動時間が3時間半程度と適切で、途中休憩も1回ですみ、移動による疲労や車酔いの心配がほとんどなかった。
- ・宿舎のペンションのお父さん、お母さんもプレセカンドスクールの趣旨をよく理解してくださって昨年度より一層理想に近い形で実施できた。宿泊施設の清掃も行き届いていたためぜんそくもほとんど発生しなかった。
- ・坂戸山の下山途中のくさり場が改良されたため、子どもたちも安心して下山できた。
- ・坂戸山はふもとにしか便所がないので、毎年段ボールの簡易トイレを指導員に頼んで持参している。幸い今年度も使うことはなかったが、腹痛の児童への対策も必要である。
- ・2つの宿に教師が分泊したので、指導員や児童への連絡や指導がスムーズに行えた。

千川小学校

10月6日～10月8日(2泊3日)

○日程表

10月6日(水)		10月7日(木)		10月8日(金)	
7:40	学校出発	9:00	浅間嶺ハイキング	8:30	宿舎出発
10:00	フォレストイングコテージ着 森を守るための講話を聞く 林業体験学習 昼食	11:00	広場 昼食	9:00	こんにやく工場見学 シクラメン栽培ハウス見学 郷土資料館見学
13:00	水生昆虫の観察	15:00	弘沢の滝見学	12:30	昼食
16:00	民宿着	16:30	民宿着		バス内で感想交流
19:00	学習の記録	19:00	学習の記録	16:00	学校着・解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習の内容

○プレセカンドスクールでは何を学習するのか、児童に分かる言葉でねらいを設定し、各自の目標をもたせた。

- ・山地でのくらしを学ぶ。
- ・協力して、交友関係を深める。
- ・生活のきまりを守る。(あいさつ、時間、マナー)

○写真等の資料から気付いたことや疑問点をもとに学習課題を立て、社会科を中心に学習を進めた。自分たちがこれから訪れる場所であるということが、児童の学習意欲を喚起し、積極的に調べる姿が見られた。

○檜原村の自然等については、総合的な学習の時間を活用して学習した。内容によって扱いを分けたことが、社会科等の内容の理解の確実な定着につながった。

○集団宿泊行事を進める学習

- ・班で役割分担をし、班内で分担した役割の準備活動を進めた。
- ・宿舎で生活する際のマナーについて話し合い、実行に向けて取り組んだ。
- ・友達といっしょに生活することの意味と、心配りをしあわなくてはならないことについて話し合い、各自が目標をもって臨めるようにした。

○指導員との顔合わせ

- ・指導員は児童にとっては先生であること、困ったときや相談したいときにはどの方に声をかければよいか、具体的な場面を想定して理解できるようにした。

東京都西多摩郡檜原村

参加人数 男子29名 女子31名
計60名

② 事後の学習の内容

「檜原村で学ぼう」

- ・ 1週間後の学校公開日にプレセカンドスクールの発表会を「ふれあいホール」で行った。
- ・ 発表内容は自分たちで選んだ。
「事前学習で学んだこと」「プレセカンドスクール中の様子」「係活動」「班の紹介」などを一人ずつ役割を決めて発表した。
- ・ 発表した後、聞いていただいた方に感想をいただいた。
- ・ お世話になった宿泊施設の方や指導していただいた方にお礼に手紙を出した。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、林業の重要さを知り、体験を通して理解を深める

フォレストイングコテージにて、林業家の方に何のために林業を行うのかを写真などのパネルを見せながら説明していただいた。特に、日本の森林のほとんどは人工林であること、森林は手入れをしなくては荒れていくことについては、児童にとっては驚きの内容であった。

その後、実際に間伐の林業体験をさせてもらった。全体を6グループに分け、それぞれのグループに指導者がついたため、一人一人が実際に活動する時間を多くもつことができた。木が倒れる方向を導くためのロープがけや力を合わせて倒すことで林業の大変さを感じた児童が多かった。自分たちが実際に活動した後を見ることによって、光の差し込み方が確実に変化したことを実感でき、「森を育てる」という意識を体得することができた。



【力を合わせて木を倒そう！】

2、水生昆虫の観察

お天気に恵まれ、実際に川へ入って水生昆虫の観察ができた。講師の先生が事前に水生昆虫の探し方を丁寧に教えてくださったり、たくさんの水生昆虫の見本を用意してくださり意欲が高まった。

初めは川の水が冷たくて歓声を上げていた子供たち達も徐々に水に慣れ、友達と協力して川の中の石を動かして水生昆虫を探っていた。



【水生昆虫たくさん見つけたいな！】

3、浅間嶺ハイキング・弘沢の滝の見学

お天気に恵まれ、朝9時から浅間嶺を目指してハイキングを始めた。グループごとに励まし合いながら、列を乱さず時間よりも早く浅間嶺の広場までたどりつくことができた。広場では、お弁当を食べたり、景色を楽しんだりした。その後、弘沢の滝を目指して下った。

弘沢の滝を実際に見学し、映像で見ると本物との迫力の違いに驚かされていた。

緑の美しさと胸一杯に吸った爽やかな空気に、檜原村の自然の雄大さを感じとることができた。



【実際に見るとすごい迫力だな！】

<学習体験活動>

1、山地の特色を活かした産業を学ぶ。

コンニャク工場を見学し、檜原村の特色である水はけのよい土地を生かして、コンニャク芋を育て、生の練り芋を使ってコンニャクを作っていることを学んだ。コンニャク芋の育て方の苦労を知ったり、コンニャクに隠された工夫を知ったりすることができた。また、シクラメン栽培ハウスでは、どうして檜原村でシクラメンが多く栽培されているのかなど、事前学習のデータでは分かり得なかったことを実際に尋ねることで理解を深めることができた。



【こんにゃくってこんなふうにするんだ！】

2、郷土資料館見学で檜原村の歴史や四季の自然の様子を知る。

郷土資料館では、DVD視聴により檜原村の秋から冬にかけての自然や生活の様子を知ることができた。また、館内での見学では、コーナーごとに歴史や芸能、自然などについて自分の興味のあるところを充分に見て回ることができ、さらに理解が深まった。

<生活体験活動>

- ・各グループの中で、仕事の役割分担をし、食事の補助や整頓、風呂場の片づけなど、一人一人が責任をもって自分の任された仕事に取り組むことができた。

○児童の感想

- ・木を切るのは初めてだった。みんなで力を合わせてロープを引っ張り、木が倒れた時は嬉しかった。
- ・プレセカンドスクールの3日間で、家でできなかったことができるようになった。
- ・班のみんながフォローしてくれたおかげで、3日間が楽しく過ごせた。

- ・3日間、いつもより友達と仲良くできたことがよかった。
- ・係の仕事は、とても緊張したが、しっかりやることができた。
- ・一人で泊まるのは初めてだったが、友達と一緒にだったからさびしくなかった。

○保護者の感想

- ・プレセカンドスクールを終えて、自分たちで考えて行動する、文章をまとめる、仲間を大切に
にする、堂々と発表するといった事がみについたような気がする。
- ・プレセカンドスクール中は、一人一人が自分の役割に責任と意欲をもって取り組んでいる様
子がすばらしいと思った。3日間充実した体験活動の内容が発表を通してよく分かった。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・山地の暮らしについて、児童が知りたいと思うことと、社会科の学習内容とは必ずしも一致
しない。社会科と総合的な学習の時間を関連させて事前学習を組んだことによって、児童の
課題意識に沿った学習を展開することができた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・セカンドスクールでは、いくつかの課題の中から選ぶため、個々に行程が異なってくる。プ
レセカンドスクールで、同じ活動ではあるが、課題をもって追究していく経験を積むことに
よって、セカンドスクールにおいて課題を選んだり、追究したりする姿勢を養っておきたい。
- ・セカンドスクールの宿泊地である少年自然の家では、民宿以上に生活の規則が要求される。
4年生で、基礎的な集団生活を学び、生活習慣、マナーを見直すことによって、セカンドス
クールまでに改善を図ることができると考える。

○次年度に向けての反省・課題

- ・4年生は、初めての宿泊体験ということで、今年度も宿泊場所を一か所にして行った。児童
の様子もよく把握できるし、ちょっとした対応も迅速に行えたのでとてもよかったと思う。
学年全員を収容する宿舎は、ここしかないが、次年度も部屋割りなどの工夫をしてこの宿舎
を利用したい。
- ・今年度は天気恵まれ、雨天対策のプログラムは行わなかった。が、雨天対策で考えていた
プログラムは、大雨が降ると周遊道路が通行止めとなり行えないので、周遊道路を使わない
雨天プログラムを新たに開発していく必要があると思われる。また、ここでは、どうしても
晴天の場合にのみ生かされるプログラムが多いのが特徴である。室内を生かした学習内容を
組んだプログラムを探す必要がある。檜原村のみでなく、もう少し地域を広げていくことも
考えられる。

井之頭小学校

10月20日～10月22日(2泊3日)

○日程表

10月20日(水)		10月21日(木)		10月22日(金)	
8:00	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:30	バス乗車・出発	6:30	朝の会	6:30	朝の会
11:45	尾瀬わくわく体験郷到着	6:45	朝食準備・朝食	7:00	朝食
12:00	開校式	7:30	出発準備	7:35	荷物最終チェック
12:15	昼食	8:20	水源見学始	8:00	野菜畑見学
13:00	豆腐・こんにゃく作り始	9:30	水源見学終	9:00	りんご狩り体験始め
15:40	豆腐・こんにゃく作り終	10:00	植物採集	10:00	りんご狩り体験終
16:15	尾瀬わくわく体験郷出発	11:30	キャンプ場集合	10:30	りんごジャム 田舎料理作り体験
16:30	各民宿に行く	11:35	昼食	12:00	昼食・宿の方とのお別れの集い
17:00	健康チェック	12:30	リース作り始	13:00	閉校式
	学習のまとめ	14:30	リース作り終	13:30	バス乗車、片品村出発
18:30	夕食	15:00	各宿到着・健康チェック	16:30	学校到着 到着式
19:30	宿の方とお話	15:30	学習のまとめ	17:00	解散
20:00	入浴	17:30	夕食準備		
20:30	学習のまとめ	18:00	夕食		
21:00	就寝準備	19:00	宿の方へ手紙を書く		
21:30	消灯	20:00	星空観察		
		20:30	入浴		
		21:00	就寝準備		
		21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・1学期の理科で「星の学習」を行い、星座早見盤の使い方、星座の位置や、名称を学習した。
- ・現地の課題別学習に向け、課題を選択させ、インターネットやパンフレット、書籍などを活用し、調べ学習を行った。課題の内容は、①片品村のりんご・産物について、②片品村の水について、③豆腐・こんにゃく作りについてなどである。
- ・社会科で「水」の学習をした時に水源林について学習し、利根川源流の水源について触れた。
- ・事前に民宿の方への質問内容を考えさせ、課題意識を明確にした。

群馬県利根郡片品村

参加人数 男子23女子22名
計45名

② 事後の学習内容

- ・ プレセカンドスクールの体験を作文にまとめた。
- ・ 事前に調べたことや、現地で学んだことを模造紙や画用紙にまとめ、次年度体験する予定の3年生にむけてプレセカンドスクールのよさや、各自が学んだことを発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、植物採集

クラスごとに分かれ、リース作りに使うための植物を採集した。子どもたちが各々自分のリースを飾り付けるために、どんぐりや木の実などを一生懸命探していた。美しい里山の景色を堪能しながら子供たちは楽しそうに過ごしていた。

2、りんご狩り

日本で一番標高の高いりんご園でりんご狩りを行った。1年間を通じたりんごの世話の仕方に驚き、おいしいりんごの選び方や種類などのお話を伺った。子供たちがりんごを選んでいる表情はとても生き生きしたものであった。3個収穫し、1つはその場で丸かじりし、残りはジャム作りに使用した。りんごの蜜の多さに感動している児童が大勢いた。



【りんご園】

<学習体験活動>

1、片品川水源見学

社会科の時間で「水源林」について学んだ。片品は太平洋側への分水嶺である。したがって、水源について課題を設定した児童も多く、とても楽しみにしていた様子であった。水源にたどり着いた時、多くの子供たちが実際に湧き出ている水を見、さわり、驚きを感じていた。実際に利根川として太平洋に注ぐ最初のわき水を飲むことが出来た。わき水のおいしさ、冷たさと長い水の行方を感じ、感嘆していた。



【片品川水源見学】

2、豆腐・こんにゃく作り体験

現地講師の指導で、豆腐・こんにゃく作りを行った。

今年度も、豆腐を作る児童とこんにゃくを作る児童に分かれ、体験活動を行った。豆腐とこんにゃくの作り方は、ほぼ全ての児童が初めて学び、とても意欲的に取り組むことができた。2つの課題に分かれたために、お互いの進み具合を確認したり、作り方を教え合ったりという学び合いの姿が見られ、充実した学習ができた。



【豆腐作り】

3、リース作り体験

現地講師の指導で、あけびのつる、木の実、落ち葉、用意して下さったドライフラワーなどを用い、リース作りを行った。作り方を教えていただいた後は、各自熱心に自分のリースに様々な工夫を加えていた。途中うまく作れず悩んでいる児童を進んで手伝う児童も見られ、児童相互の関わり合いが深まった。

4、野菜畑見学と野菜収穫体験

それぞれの宿の畑で、野菜畑の見学と野菜収穫体験を行った。ほとんどの児童が白菜のような大きな野菜を収穫することが初めてであり、その大きさや、重さに驚いた様子であった。また、自分で収穫した野菜を昼食の時に自分たちで調理し、うどんにして食べた。収穫の苦労と喜びを感じ取れたようであった。

<生活体験活動>

1、ジャム作り

各宿の指導で、「りんごジャム作り」を行った。児童の作文に「甘くておいしいりんごジャムが心に残った」という記述が多く見られ、子供たちの印象にとっても残ったようであった。出来上がったジャムはその場で試食し、東京にお土産として持ち帰った。自分のためだけでなく、家族や教師へのお土産として一生懸命作っている児童の姿が印象的であった。

2、昼食作り

それぞれの宿ごとに収穫した野菜を使って、うどん作りを行った。うどんをこねたり、製麺機でうどんをきったり、野菜を包丁で切ったり、ゆでたりすることをぎこちないながらも楽しんで取り組むことが出来ていた。「自分たちで作った料理はとてもおいしかった。」という意見が多く、東京に戻っても料理をしてみたいという声が聞かれた。

○児童の感想

- ・利根川の源流の片品川の始め「最初の一滴」を見ました。湧き出ている、その水を飲んだらとてもおいしかったです。水の色はすき通っていてきれいでした。
- ・1番の思い出は、豆腐作りです。豆腐ができていく様子は面白かったです。大豆の味がとても濃くて、普通の豆腐とは味が違いました。
- ・りんごのもぎたてを選んで食べた時、とても甘くておいしいと思ったのと同時に、大切に育て

ているのだと思いました。

- ・田舎料理作りで、うどんを作って食べたことが一番の思い出です。自分たちで作ったうどんと収穫した野菜で作ったかき揚げはとてもおいしかったです。

○保護者の感想

- ・普段は学校のことはあまり話さないのに、プレセカンドから帰ってきて、いろんなことをたくさん話してくれました。表情も明るく、生き生きとした様子で充実した3日間だったと感じました。
- ・「自分のことは自分で」がより根付いたような気がします。自分自身に自信がもてるようになったのだと思います。
- ・家に帰ってきてからも、自ら進んで布団をたたんで片付けたり、配膳を手伝ったりと頑張ってくれています。

○総合的な学習の時間との関連について

事前学習で、片品村のりんご、大白大豆、こんにゃく、豆腐の作り方、水源について課題を設定し、各自パンフレットやインターネットなどの資料を使い調べた。調べたことを実際に見聞きし、子供たちの理解を深めることが出来た。事後学習のプレセカンドスクールのまとめにもとても意欲的に活動できた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・セカンドスクールでは日程的にゆとりのあるプログラムであるが、プレセカンドスクールでは、体験活動を多くし、充実感を味わわせることを目的とした。
- ・来年度のセカンドスクールにむけて、長期間、家庭を離れる生活をするための、身辺自立が出来るように配慮した。
- ・児童1人1人が事前学習で課題を明確にしたことで、課題を意識した活動を行うことができ来年度の課題別学習につなげることが出来た。

○次年度に向けての反省・課題

次年度にむけての課題としては、豆腐・こんにゃく作りで、豆腐を固める間の時間、こんにゃくを煮る時間の有効活用である。待つ間、わくわく体験郷の庭での自然体験を取り入れるなど工夫していきたい。

また、植物採集体験は、片品川水源体験と同時に行うことができるので、次年度は片品川沿いに歩くときと、宿の周りの散策時に行うようにしたい。

各宿ごとに体験するものを設定し、農業体験などもできるとよい。

関前南小学校

9月15日～9月17日(2泊3日)

○日程表

9月15日(水)		9月16日(木)		9月17日(金)	
7:30	出発式	6:30	起床・清掃	6:30	起床・清掃
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
10:00	フォレストインクコテージ着	7:30	民宿の方との交流	8:30	出発
	開校式	8:30	出発	9:00	井上こんにやく工場見学
10:30	林業体験	9:00	都民の森着	9:45	シクラメン栽培見学
12:30	昼食	9:20	三頭山ハイキング	10:30	井上食品発
13:15	水生昆虫観察	12:00	三頭山山頂到着 昼食	11:00	檜原小学校訪問
15:20	製材作業見学	12:30	山頂出発		ドッジボール大会
17:00	各民宿着・入浴	14:00	木工教室	12:20	昼食
18:00	夕食	15:15	都民の森発	13:00	弘沢の滝見学
19:00	学習の記録	15:30	数馬分校記念館着	14:30	檜原小学校発
20:00	健康観察・明日の準備	16:45	各民宿着・入浴	16:45	学校着
21:00	消灯	18:00	夕食		帰校式
		19:00	学習の記録	17:00	解散
		20:00	健康観察・明日の準備		
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

(1) 総合的な学習の時間において

児童一人一人が興味のあることを中心に課題設定をした。課題に沿ってインターネットや書籍を使用して事前に調べ学習を行った。調べる中から不明な点、発表に向け見学して確認したいこと、現地の人に質問したいことなどをあらかじめ考えて、現地での課題や学習のめあてをより明確にした。

(2) 社会科において

檜原村の概要について、社会科副読本「わたしたちの東京」を使用して事前学習をした。檜原村の人々が地域の地形的・地理的特性を生かしてどのような暮らしをしているのだろうかという学習課題をもった。

(3) 理科の学習において

水生昆虫とは何か、その種類、特徴、生息環境などについて学習した。観察方法の確認も行った。

東京都西多摩郡檜原村

参加人数 男子18名 女子19名
計 37名

② 事後の学習内容

(1) 総合的な学習において

「檜原村を伝えよう」として、グループ別に体験したことをまとめ、3年生児童を対象にポスターセッション形式で発表を行った。グループで発表した内容は次の通りである。

- 水生昆虫…秋川で観察した水生昆虫とその捕り方、活動の様子
- 鳥…檜原村に生息する鳥の特徴、観察の仕方 ○植物…檜原村の植物の特徴
- 山（林業体験）…三頭山、間伐・林業の大切さ、働く人の様子や思い、活動の様子
- 川…檜原村を流れる川、川の活用 ○滝…檜原村にある滝
- 交通…檜原村の道路、交通手段 ○観光…檜原村の観光地、特産品
- こんにやく作り…こんにやく工場における製造方法、活動の様子
- シクラメン栽培…シクラメンの特徴 シクラメン栽培の様子
- 宿舎…檜原村の旅館・民宿の特徴、宿舎の人の様子や思い

(2) 社会科において

「わたしたちの東京」2 地形の特色を生かす～山地にくらす人々～

この単元では東京都の山地として檜原村が取り上げられている。そのため、プレセカンドスクールでの体験が学習に直結した。

(3) 国語科において

手紙文の学習として、プレセカンドスクールでお世話になった方々や檜原小学校の児童に手紙を書いた。また、プレセカンドスクールでの体験を作文に表した。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

- ・林業体験として、間伐作業を行った。各班で1本の木を間伐した。ロープ上げの仕方や切り方、倒し方を教わると同時に、林業における、間伐作業の必要性を理解することができた。
- ・製材所では、送材車に乗せていただくことができたため、働く人の視点で見学をすることができた。
- ・秋川では水生昆虫を採集して観察した。
- ・三頭山ハイキングでは、三頭山の中腹にある三頭大滝を見学した。



【三頭山の散策】

途中に出会った様々な動植物については、都民の森のガイドの方から説明を受けた。また、都民の森に戻ってからは、ガイドの方の説明を聞いたり、スライドを見たりして、檜原村に生息する野鳥についての知識を広げた。

＜学習体験活動＞

- ・林業体験では地元のキャリア 30 年～50 年の熟練した講師の方々から森林の保全や管理、植林などについての話を聞いた。また、子ども 6 名あたりに一人の講師と、間伐作業に対して手厚い指導を受けることができた。
- ・斜面に作られたこんにゃくいも畑などの、檜原村の土地の利用の仕方を見て、学校で学習してきたことを確かめることができた。
- ・「都民の森」の木工教室で、杉板から型どりをして、電動のこぎりでキーホルダーを作った。
- ・檜原小学校数馬分校では昔の檜原村の暮らしについて話を聞いた。
- ・檜原村の特産物であるシクラメン作りの様子やこんにゃく工場の見学を行った。



【林業体験】

＜生活体験活動＞

地域の人々とのふれあい

- ・宿舎の方と交流をした。檜原村の特産物であるこんにゃく作り・ルバーブジャム作り・ジャガイモスープ作りをして交流した。こんにゃく芋をすり下ろす過程から体験させてもらったので、子どもにとっても貴重な経験であった。
- ・こんにゃく工場見学では、檜原ならではのこだわりのこんにゃく作りについて話を聞くことができた。また、できあがったこんにゃくを実際に試食させてもらい、味を確かめた。
- ・檜原小学校の子どもたちと交流した。午前中はグループごとにゲームをしたり、ドッジボールをしたりした。昼食を一緒に食べてから、午後は檜原小学校の児童が本校の児童を弘沢の滝まで案内・説明をしてくれた。手紙のやり取りをするなどして交流を続けている。



【宿との交流】

○児童の感想

- ・わたしが一番楽しかったことは、林業体験です。最初は難しそうだし、怖くて不安だったけど、フォレストイングコテージの人が分かりやすく教えてくれたので上手に間伐作業をすることができました。林業はとても大変なことがよく分かりました。
- ・最終日に行った檜原小学校が一番の思い出です。ドッジボールをしたり一緒に昼食を食べたり、一緒に弘沢の滝に行ったりしているうちに、檜原小学校に友達ができました。本当はもっと一緒にいたかったけれども、みんなに迷惑がかかるのでがまんしました。また行きたいです。
- ・ぼくが思い出に残ったことは自然観察です。都民の森の浦野さんが、木の実や花のことを教えてくれました。また、鳥の種類や鳴き声についても詳しく教わるすることができました。檜原村の自然のことをたくさん知ることができました。

○保護者の感想

- ・帰ってきてからたくさんの土産話をしてくれました。武蔵野市ではできない体験をたくさんしてきて、とても勉強になったようです。自然の大切さや林業の大切さを家族に話してくれました。
- ・家族以外の人との宿泊が初めてだったため心配でしたが、大きな問題もなく楽しく過ごすことができたようです。宿の方がとても親切で、料理もおいしく友達と充実した時間を過ごすことができたようです。
- ・檜原小学校との交流で、友達ができた嬉しそうに話していました。同じ東京都ではあるものの、環境の違うところで育った子どもたちとふれ合うことで、よい刺激を受けたようです。



【檜原小学校との交流】

○総合的な学習の時間との関連について

- ・事前学習では、檜原村の特色を社会科の学習の発展として学習した。
- ・興味があることから、調べ学習の課題を設定したり、プレセカンドスクール中に見学する施設や講師の先生の話に触れたりして、事前に質問内容を考えた。
- ・事後学習では、現地で実際に見たり、聞いたりしたことを中心に発表準備を進めた。また、まだ檜原村のことを知らない3年生にも分かるように、写真を選んで添付したり、言葉を精選したりして分かりやすく発表した。
- ・発表原稿をそのまま読んでは聞き手が飽きてしまうので、発表の中にクイズを取り入れたり、現地でもらったものを紹介したりした。発表形態の工夫を考えることで、表現力を高めることができた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・学校で行う初めての集団宿泊体験なので、心構えや集団生活の指導に重点をおいた。
- ・現地の方との交流を大切に、気持ちのよい挨拶や、感謝することの意義を話した。
- ・持ち物の準備や片づけ、部屋の整理整頓などができるよう意識付けしてきた。
- ・セカンドスクールで鳥海山に登るので、精神的・肉体的準備として、三頭山登山を実施した。
- ・セカンドスクールでは、農業体験（稲刈り）・漁業体験（鮭のふ化、捕獲、鮭の加工品作り）を予定しているが、林業体験はできないため、林業体験を行った。

○次年度に向けての反省・課題

- ・今年度は水生昆虫観察で講師の先生の都合が合わず、代替りの講師を見つけることもできなかった。日程が決まりしだい、早めに連絡を取り、都合をつけていただけるようにする。
- ・お祭りの準備の時期と重なっていたため、西川商店は外からの見学だけとなった。実踏や事前の電話連絡で確認し配慮する必要がある。（今年度は事前の電話連絡により確認した。）

桜野小学校

9月15日～9月17日(2泊3日)

○日程表

9月15日(水)		9月16日(木)		9月17日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
7:45	学校発(バス)	7:00	朝食・片付け	7:00	朝食
9:30	アクアライン川崎	9:00	集合・ホテル発	8:00	荷物の準備・大掃除
	海ほたる(休憩)	9:15	赤山地下壕見学	8:30	ホテル発
	アクアライン木更津	11:30	ホテル着・昼食	8:45	沖ノ島着
11:15	野鳥の森着	12:45	沖ノ島着		沖ノ島探険(2日目)
	ハイキング・昼食		沖ノ島探険(1日目)	11:30	ホテル着・昼食
14:15	野鳥の森発	16:00	ホテル着	12:30	ホテル発
14:45	砂山着・砂山すべり体験	17:45	入浴・活動のまとめ	13:30	アクアライン木更津
15:30	ホテル着・開校式・入浴				海ほたる(休憩・見学)
18:00	夕食	19:00	夕食	15:00	アクアライン川崎
19:00	活動のまとめ、海ほたる鑑賞	20:00	活動のまとめ	16:00	学校着・解散式
20:30	健康観察・就寝準備	20:30	健康観察・就寝準備	16:30	解散
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

(1) 館山の自然を知ろう(総合的な学習の時間)

館山について、様々な視点からテーマを考え、調べ学習をした。調べたことをもとに自然など様々な事象に進んで働きかけていく意欲を高めていくことをねらった。海の生き物について調べたり、野鳥の森の鳥類について調べたり、ビーチコーミングについて調べたり、様々なテーマから館山に迫ることができた。

(2) 館山について詳しくなろう(社会科)

事前に出前授業として、館山市の観光協会の方々に学校に来ていただき、2時間の授業をしてもらった。市の特徴をスライドで細かく、分かりやすく説明していただき、そのため、事前の取り組みが活発になった。

(3) 集団生活における指導(学級活動)

児童が生活の流れやその日の活動の特色やねらいをつかみ、主体的に活動できるように、事前に説明をした。また、係活動として、プレセカンド期間中の役割を分担し、仕事の内容について話し合う場を設けた。

② 事後の学習内容

- ・ 一番の思い出を作文にまとめる
- ・ 拾ってきた、貝、木の実等を使って、作品を作った。
- ・ 共通のテーマから、それぞれの発表形式にまとめる。
役割分担をし、発表する。
- ・ 保護者へ…自分たちの生活の様子の感想を書き、B4版用紙に写真と共に載せて、「プレセカンド報告」として配った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、野鳥の森ハイキング

1時間程度で回れるハイキングコースを、班ごとに時間差をつけ、絵地図をもって歩いた。途中の展望台からは、鏡ヶ浦をきれいに望むことができた。

グループでの行動は協力しながら進むことができた。ただ、グループによっては、途中で迷ってしまいみんながバラバラになりかけたようだったが、指導員や教員の助けをかりながらも、最後は協力して無事に歩き切ることができた。

2、砂山滑り体験

滑る地点に行く間も、長く緩い砂山の傾斜を、息を切らせながら登った。実際に滑る地点に到着すると、始めはあまりの急傾斜に立ちすくんでいた子どもたちだったが、砂山の急斜面を何度も登り夢中になって砂を体中で体感していた。海から自然に吹き付けた砂によってできたものだという地元の方のお話や、30年後には砂山が無くなってしまうかもしれないというお話も聞くことができ、自然の雄大さを感じながらの活動となった。

3、赤山地下壕見学

天候不良のため、地引き網体験を変更して、赤山地下壕の見学となった。出かける前に、ホテルの方の好意により、ガイドを急遽手配していただいた。子どもたちは、4グループに分かれ、詳しく説明を聞く事ができた。地元の方の温かさを身にしみて感じるとともに、4つのグループに分かれて聞いたことで、細かい所まで子どもたちが興味を持って取り組めたのでありがたかった。

中に入ると、寒いぐらいの気温と真っ暗な所なので、怖がる子どももいたが、説明を聞いているうちに、そんな事も忘れ興味深そうに見学することができた。

4、沖ノ島探検・ビーチコーミング

無人島・沖ノ島探検の1日目は、地元の「海の鑑定団」の方々から島をぐるりと一周しながら島の概要や館山の海の生き物について教えていただいた。鑑定団の方々のお話にとっても興味を持って聞き入っていた。

歩いて一周できる島の海岸線は、場所によって、いろいろな様子が見られた。また1日目と2日目では時間差があり、海水の干満の差で海岸線には様子の違いが見られた。ゴツゴツした岩の潮だまりで生き物を見つけたり、地層の見える洞くつを見学したり、貝殻やシーグラスが散りばめられて



【たくさんお宝（貝など）を拾って満足】

いる砂浜でビーチコーミングをしたりと豊かな自然の中で地形や海の生き物のことを学びながら活動を思う存分楽しむことができた。

○児童の感想

- ・野鳥の森ののぼり坂は急で、すごくつかれました。国見てん望台から見た景色はきれいでした。ほかの班と会ったり、どんぐりが落ちていたり楽しいキイキングができました
- ・砂山すべり体験では、1回すべってハデに転んだ。ソリから落ちて自分がソリのようになって下まで落ちてしまいました。目と口に砂が入ってしまいました。
- ・赤山地下ごうは、暗くてこわかったけど、とても広くて、ぬけあながたくさんたくさんありました。かべには、かなづちの先がとんがっているのでたたいたあとがいっぱいありました。
- ・沖ノ島で楽しかったのは、ビーチコーミングです。宝貝は見つからなかったけど、いろいろな貝がひろえてうれしかったです。
- ・沖ノ島のビーチコーミングでは、貝がいっぱいありました。おおへび貝がいっぱいとれました。どうくつがすごく暗くて何にも見えませんでした。
- ・海ホテルは青くきれいに光っていました。海ホテルは小さいけど、一つひとつが青く光っていてとてもきれいでした。
- ・海ホテルは、しげきをあたえるとどうして光るのかなあと思ったら、てきから身を守るためだっていうのにおどろきました。
- ・バスの中で一番楽しかったのは、ビンゴゲームです。楽しかったです。ちょっとよってしまいました。
- ・ホテルでは、部屋が一番広かったのも、となりの部屋の人といっしょに遊んだりしました。
- ・ホテルの部屋では、時間を有こうに利用して明日の準備をしたりしました。
- ・食事係のあいさつをうまく言えてよかったです。生活班では、楽しくすごせてうれしかったです。少しけんかもあったけど、よかったと思います。

○保護者の感想

- ・先生方や指導員の方のサポートにより、けがも無く楽しく過ごせたようで、ありがとうございました。
- ・友だちとの楽しい思い出話をたくさん聞かせてくれました。
- ・砂山滑り体験、ビーチコーミングなど、現地でしか体験できない素晴らしい体験ができるのがありがたいです。
- ・来年のセカンドスクールが今から楽しみです。

○総合的な学習の時間との関連について

1学期の総合的な学習の時間では、進んで課題を見つけ、関心を深めながら学習を進めることができ、自然や周囲の人に進んではたらきかけていけることをねらった。現地では、一人一人が自分の課題意識をもって、それぞれの活動に取り組んだ。現地指導員へも積極的に自分の疑問を投げかけ、課題を解決することができた。学校に戻った後は、事前学習と現地での体験をまとめ、自分の体験をより明確に示すことができた。

事前・現地・事後を通して、「課題をつかむ、調べる、見る、触る、感じる、まとめる、伝える」という学習の流れを体験できた。これは、今後の総合的な学習を始めとする様々な学習活動に有効的な体験である。

○セカンドスクールとの関連について

- ・学年合同で様々な活動を行うことで、連帯感を育て、集団として活動すること、協力することのよさを味わえるようにすることができた。
- ・現地指導員や生活指導員など、大人との関わりに目を向ける指導を重ねた。子どもたちは、自分たちの活動を支える様々な方々の願いや努力を知り、感謝の気持ちをもつことができた。
- ・公共のマナーや集団生活のルールについて、十分に指導し、活動に取り組ませた。その結果、宿泊を伴う学習の際、子どもたちへ配慮することや課題点も明確になり、来年度の長期宿泊に向けて、今後の指導の参考になった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・野鳥の森での活動は、班行動のよさを味わう活動であったが、時間が少し短かった。もう少し出発の時刻を早くして、ハイキングできる時間を増やしてもよい。
- ・砂山での体験は、館山でしか味わうことのできない貴重なものとなった。
- ・そんなに雨、風とも強くもなく、波も高くないと思ったのに、地引き網が中止になってしまった。富浦漁港は穏やかな海で、他が荒れていてもできるからと昨年場所を変更した経緯があるのに、中止になったことには疑問が残った。